

令和4年度年報

(2022 年度)



国立療養所多磨全生園

令和4年度年報発刊に寄せて

国立療養所多磨全生園 園長 鵜飼 克明

令和4年度もコロナ禍の猛威は続きました。新たな変異株の出現、そして第7波、第8波と繰り返す波、これまでを大幅に超える感染拡大に国内は飲み込まれました。また、令和4年2月のロシアによるウクライナ侵攻を契機とした原材料やエネルギー価格の高騰、そして円安の進行など、内外ともに落ち着かない1年間でありました。当園ももちろん、この大きな変化に飲み込まれました。とりわけ入所者の皆さまにとっては、楽しみにしていた様々な園内行事が規模縮小あるいは中止を余儀なくされ、さらには感染対策のために様々な我慢や忍耐を強いられるなど、辛く窮屈な1年であったと思われます。コロナ禍の始まりは令和元年12月の中国武漢で認めた原因不明の肺炎とされますが、実に3年以上もの長きにわたって辛く窮屈な日々が続いたことになりました。園を管理するものとしては忸怩たる思いであります。

しかし社会はレジリエンス（resilience）を示し、コロナ禍からの脱却そして回復を目指した動きも見えだしました。実際に令和5年5月には新型コロナウイルス感染症は5類に移行するなど、社会は着実にニューノーマルを目指して動き出した1年でした。

さて、コロナ禍が続く中、入所者は益々高齢化し、そして年々減少し、令和5年3月末時点では平均年齢は87.8歳、入所者数も105名となりました。コロナ禍前の平成30年3月末には86.0歳、157名でしたので、その変化の大きさが窺い知れます。このような背景から、令和4年度の園の課題は、コロナ禍から入所者を守るとともに、この「失われた3年」を如何にして取り戻すかでした。そして入所者の皆さまがこれからも安心して暮らすため、園の将来構想を明確にすることでした。令和4年度は確かに停滞の1年ではありましたが、希望の萌芽を感じさせる1年ともなりました。

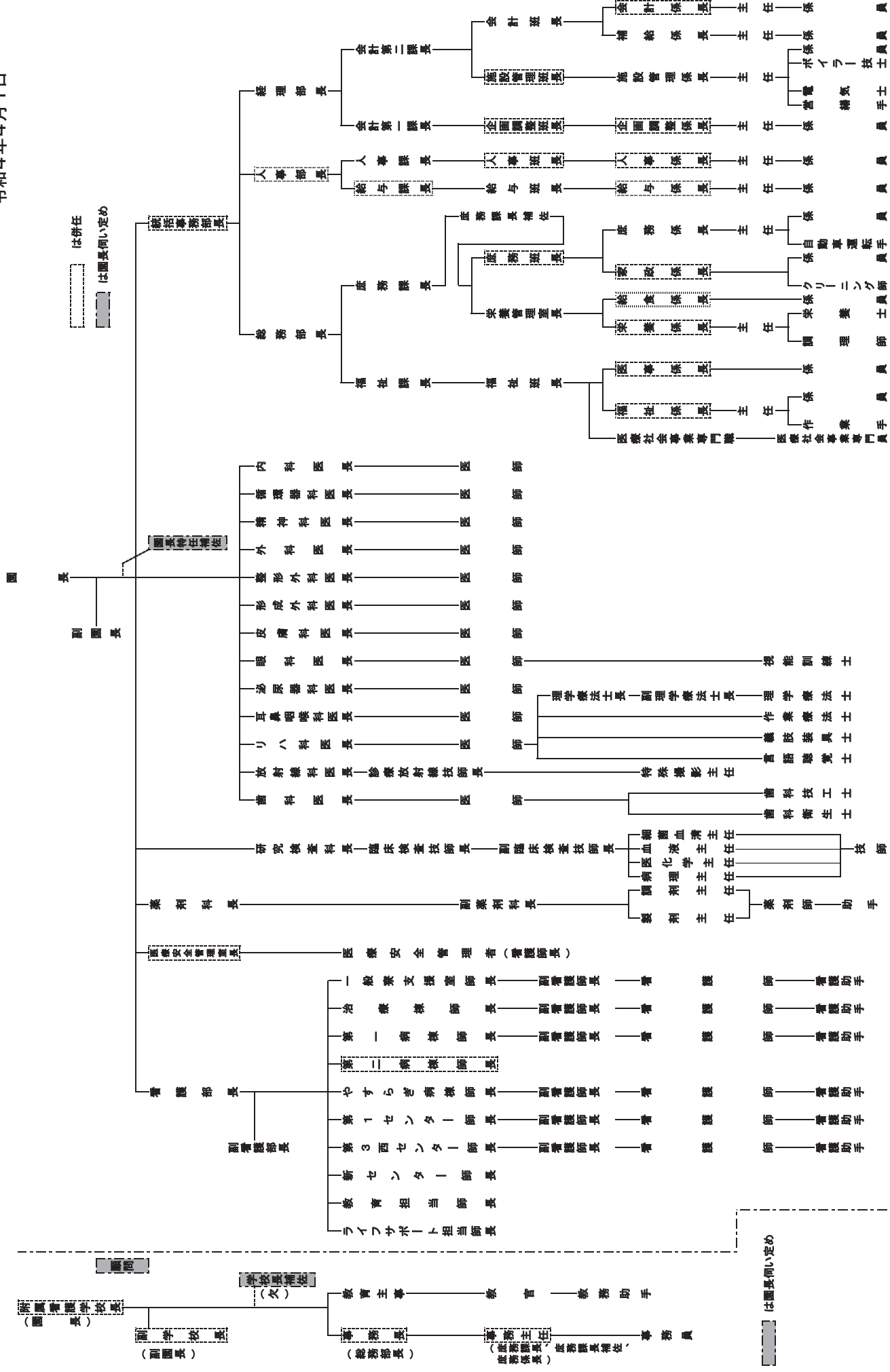
年報には、このような令和4年度における当園の診療・看護・介護、それを支える事務部門、そして附属看護学校や保育園などの活動状況が具体的に記録されています。すなわち、職員一人ひとりの「入所者一人ひとりが心の安らぎを得て療養できる環境を提供し、生きていることの充実感が満たせるように医療・生活の充実をはかる」ことを目指した日頃の活動の足跡が記録されています。毎年度この足跡を纏めて園内外に報告し、自ら省察し、そして客観的な評価を受ける、それこそが本年報の目指すところです。そして、このような継続的活動こそが「当園の求められる役割」を発揮するためには重要だと考えます。

まとめに、ここまで準備をして頂いた各部門の方々の協力に感謝するとともに、この年報が多磨全生園の理解と更なる改善に繋がることを願い、巻頭の言葉と致します。

令和5年11月23日

國立療養所多磨全生園組織圖

令和4年4月1日



施設理念

当園は、入所者一人ひとりが心の安らぎを得て療養できる環境を提供し、生きていることの充実感が満たせるように医療・生活の充実をはかります。

基本方針

- ◎ 入所者の目線にたった安心で信頼される医療を提供します。
- ◎ 入所者の権利（知る権利・自己決定権・プライバシー）を尊重します。
- ◎ 快適な生活環境の場を提供します。
- ◎ 職員の教育・研修に努めます。

患者（入所者）の権利

- ◎ 人格を尊重した医療を受ける権利
- ◎ 医療に関する十分な説明を受ける権利
- ◎ 個人情報保護の権利
- ◎ 診療情報の提供を受ける権利
- ◎ 検査や治療等の自己決定の権利

国立療養所多磨全生園の組織目標

【今期（令和4年度）の組織目標】

施設名：国立療養所多磨全生園

	内容	推進する上での課題
1	期限（ 3月まで ） 数値目標（ ） 【国立療養所多磨全生園の将来のあり方の推進】 ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等）について入所者等と十分調整を行い、将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。	・入所者の意見を尊重し、入所者と話し合いを十分に行った上で検討 ・地方自治体、地域住民との調整 ・必要に応じ、本省と調整
2	期限（ 3月まで ） 数値目標（ ） 【職員確保対策の推進】 入所者へのサービス提供体制の維持・向上を図るために必要となる職員を確保するとともに、離職防止策を推進する。特に看護師及び看護助手（介護員）について年度途中での離職が生じた場合は、速やかに募集活動を行い欠員解消を図る。	・施設全体で各部門の職員確保・離職防止策を実施。 ・積極的な募集活動実施、就職説明会の参加、学校、周辺医療施設等へ呼びかけ。 ・必要に応じ、本省と調整。
3	期限（ 3月まで ） 数値目標（ ） 【職員の知識・技術の向上の推進】 入所者のハンセン病後遺症及び高齢化による認知症や手足等の障害に対する医療・看護・介護の充実、コンプライアンスの徹底、職員研修・勉強会の開催、施設内外研修等への積極的な参加等を図る。 （医療安全管理研修会年2回開催、感染対策研修会年2回、ハラスメント（セクハラ・パワハラ・マタハラ）研修会年1回開催し、参加率は100%を目標とする）	・全職員が参加できる研修計画の企画・立案による実施。 ・全職員（新規採用者含む）が、ハンセン病に対する正しい理解を深め、医療・看護・介護の充実に繋げるための研修内容の見直し。
4	期限（ 3月まで ） 数値目標（ ） 【令和4年度予算の適正な執行、支出・給与業務一元化の検討】 施設・医療機器設備の年間整備計画に基づき、計画的かつ適正な予算執行を行う。 また、国立ハンセン病療養所に係る経費の支出及び職員の給与の支給を適切に行うための方策の検討等を行う。	・施設全体における施設・設備整備の進捗状況を共有し、効率的・計画的なスケジュール調整を行い、早期執行に努める。 ・自治会及び本省との事前調整。 ・各施設の実態把握、委託業者等との調整及び試行等。
5	期限（ 3月まで ） 数値目標（ ） 【職員の健康管理の改善、ワークライフバランスの推進】 定期健康診断後の健康管理指導等を徹底し、年次休暇取得、超過勤務縮減を促進する職場環境作り、特定保健指導・メンタルヘルス・病気休暇取得者等への積極的な支援（相談、復帰等）を行う。 育児・介護に伴う制度活用が円滑に取得できる職場環境作りを行う。 （ドック・健康診断受診率100%、各職員付与年次休暇（繰越分除く）取得率80%、超過勤務時間数の対前年度減）	・全職員の定期健康診断結果の把握、指導体制の確立。 ・年次休暇取得促進、超過勤務縮減のための組織的点検・分析による各職場長へのフィードバック。
6	期限（ 3月まで ） 数値目標（ ） 【看護・介護体制の充実】 入所者の看護・障害度に応じた体制整備と職員配置に再編成し、看護・介護サービス提供体制を強化する。	・入所者の意見を傾注し、入所者の理解を得ながら、個々の看護・障害度に応じた看護を行う体制及び職員配置を行う。 ・再編に向け、看護職員の協力と理解を得る。 ・必要に応じ、配置職員の確保等について本省と調整。
7	期限（ 3月まで ） 数値目標（ ） 【人生サポートの支援】 人生サポート推進室を中心とした他職種協働による活動体制の確立により、入所者から終末期対応における意向を確認し、記録を刷新する。	・職員・入所者への協力依頼と事前周知方法。 ・聞き取り者選定、グループ編成。 ・既存データとの整合性、継続性の尊重。

【職員の能力向上のための取り組み】

	内容
人材育成・組織活性化	入所者のハンセン病後遺症及び高齢化による認知症や手足の障害増加にあわせた医療・看護・介護が実践できるよう、職員研修・勉強会を開催するとともに、施設内外研修への積極的な参加を促進する。(再掲) 医療安全管理研修会年2回開催、感染対策研修会年2回開催、ハラスメント（セクハラ・パワハラ・マタハラ）研修会年1回開催し、参加率は100%を目標とする。(再掲)
実態把握能力	入所者へのサービス提供体制の向上に必要な職員の確保を行うために、各部門毎に職員の欠員理由を分析し、対応策を検討する。(再掲) 施設・設備の整備計画に基づき、計画的かつ効率的に予算を執行する。(再掲)
新政策企画・立案能力	ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等：災害時協定含む）について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。(再掲) 国立ハンセン病療養所に係る経費の支出及び職員の給与の支給を適切に行うための方策の検討等を行う。(再掲)
政策検証能力	ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等：災害時協定含む）について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。(再掲)
コミュニケーション能力	管理診療会議等における伝達事項（職員周知の必要事項）などを、誰もが理解しやすい簡潔かつ明瞭な表現となっているか自己点検する。また、職場長は平日頃の業務を通じて、部下に対し丁寧に、かつ、わかりやすく直接説明するように心がけ、また、確実に全職員に伝わるよう園内LAN、各種ミーティング、資料回覧等を活用し、迅速かつ正確に情報共有を行う。
コスト意識	園内配布物等は原則両面白黒コピーとし、常に全職員が節約に心がける。後発薬品の使用割合については85%を目標として、薬事委員会等で周知し、実現に向け努力する。
業務改善能力	ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等：災害時協定含む）について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。(再掲) 事務職員の人材育成に向けた研修会を、年数回、定期的に開催し、個人毎のスキルアップを図る。
リスク対応能力	全職員に法令遵守の徹底を働きかけ、問題発生を未然に防止する。仮に、問題が発生した場合は、職員は速やかに職場長や担当部署へ報告・相談することを徹底する。また、園内で対応を検討し処理するうえで、内容によって本省に迅速に報告し、対応を協議する。 機会あるごとに制度の周知、公務員倫理研修会の実施及び事務部門における法令遵守自己点検を行い、取り組みを強化する。

目 次

- ・年報発刊によせて（園長 鵜飼 克明）
- ・国立療養所多磨全生園組織図
- ・施設理念・基本方針・患者（入所者）の権利
- ・国立療養所多磨全生園の組織目標

I	活動報告	1
	1. 諸会議開催状況	3
	2. 診療部門	4
	3. 看護学校	37
	4. 新型コロナウイルス感染症への対応	38
II	行事・園外からの受入、研修等報告	43
	1. 園主要行事	45
	2. 厚生労働省・法務省等視察状況	46
	3. 看護学生実習・施設見学・研修等施設利用許可状況	47
	4. ボランティア受入状況等	52
	5. 研究活動・研修参加・倫理審査委員会状況	53
	6. 規程の改訂状況	61
III	統計資料	63
	1. 職員定数・現員、永年勤続授賞者等	65
	2. 経理関係	69
	3. 入所者関係	70
	4. 治療棟診療科受診者数	76
	5. 診療統計関係	77
	6. 医療事故分析報告	85
	7. 看護学校関係	86

I 活動報告

1. 諸会議開催状況（令和4年度）

会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理診療会議	4月28日	5月26日	6月23日	7月28日		9月29日	10月27日	11月24日	12月22日	1月26日	2月22日	3月23日
園内感染対策委員会	4月28日	5月26日	6月23日	7月28日		9月29日	10月27日	11月24日	12月22日	1月26日	2月22日	3月23日
	4月5日	5月17日	6月7日	7月5日		9月6日	10月4日	11月1日	12月6日	1月17日	2月7日	3月7日
幹部会議	4月19日	5月31日	6月21日	7月19日		9月20日	10月18日	11月15日	12月20日	1月31日	2月21日	
								11月29日				
医療安全管理委員会	4月21日	5月19日	6月16日	7月14日	8月18日	9月22日	10月13日	11月17日	12月15日	1月19日	2月16日	3月16日
薬剤委員会		5月23日		7月25日		9月26日		11月28日		1月23日		3月27日
褥瘡委員会		5月16日	6月13日	7月11日		9月12日	10月24日	11月8日	12月12日	1月23日	2月13日	3月14日
NST委員会	4月7日	5月12日	6月2日	7月7日		9月1日	10月7日	11月10日	12月1日	1月5日	2月2日	3月2日
献立委員会	4月26日	5月24日	6月28日	7月26日		9月27日	10月25日	11月22日	12月27日	1月24日	2月28日	3月22日
栄養管理委員会	4月26日			7月26日			10月25日			1月24日		
公共調達委員会	4月14日			7月13日			10月13日			1月6日		
臨床検査委員会												3月10日
健康安全管理委員会						9月20日						3月24日
輸血療法委員会						9月26日						
保育所委員会		5月19日		7月15日		9月13日		11月24日		1月19日		3月22日
診療情報等管理委員会												3月8日
中央材料室運営委員会						9月9日						
医療倫理委員会												
倫理審査委員会	迅速審査			迅速審査						迅速審査		迅速審査
看護学校運営会議		5月10日	6月6日			9月27日	10月6日	11月15日	12月5日		2月2日	3月14日
											2月7日	
病理検体の管理等に関する委員会												3月14日
ハラスメント調査委員会					8月24日							3月22日
将来構想委員会				7月28日						1月17日		
施設懇談会	4月14日	5月12日	6月9日	7月14日		9月6日	10月13日	11月10日	12月8日	1月12日	2月9日	3月9日

2. 診療部門

内 科

内科医長 汐崎 祐

1 診療体制

(1) 外来の状況

火曜日を除く平日の一般内科外来を常勤医3名、非常勤医師2名により実施し、それに加えて隔月に1回の非常勤医師によるリウマチ外来を実施した。前年度まで開設されていた非常勤医師による脳神経内科外来は、常勤医が神経内科専門医の資格を有することから終了となった。

また、今年度から新たに心臓と頸動脈の超音波検査が実施できるようになった。年度内で前者は20件、後者は29件実施しており、入所者の心機能、動脈硬化および脳梗塞のリスク評価に役立っている。

(2) 病棟の状況

新規に発生した急性期の疾患については1病棟、認知機能や身体機能の低下からの生活上の問題による入院はやすらぎ病棟で対応し、各病棟ともに月1回のカンファレンスを実施して治療方針の検討および情報共有を行った。

1病棟への年度内の新規入院件数は47件（他科との併診を含む）であり、頭蓋内出血や敗血症と言った重篤な疾患から新型コロナウイルスワクチン接種後の経過観察目的のような軽微な問題まで幅広く対応した。

今年度も新型コロナウイルスの流行が続き、当園の入所者にも初めて感染者が発生した。最終的に年度内で6名の感染者が発生したが、1病棟の一部を区切って感染症エリアとして対応し、いずれも軽微な症状のみで回復した。

2 診療スタッフ

医長	村上 龍司	医長	佐藤 一郎（10月に転出）
医師	汐崎 祐	非常勤医師	弘岡 泰正
非常勤医師	大滝 純司	非常勤医師	中嶋 京一（リウマチ科）

3 診療内容

一般内科外来では1日あたり4～8名程度を診療しており、その多くは入所者の高齢化を反映し、高血圧、高脂血症、糖尿病などの慢性疾患が中心である。園内で治療困難な症例は、多摩北部医療センターや、東京病院、埼玉病院、公立昭和病院、複十字病院、新山手病院等の外部医療機関と連携し、治療に当たっている。外来以外の診療業務として、入所者に対する検診を実施しており、年度内で79名の内科検診を実施した。

4 1年間の経過と今後の目標

新型コロナウイルス感染症の流行が続く中でも、園内で大規模な感染拡大を来すことなく業務を実施できた。潜在的疾患の早期発見、早期治療のために、年に一回の検診を通じて、検査データの異常に引き続き注意して行く。また、当園で得た医学的な知見を学術的活動に生かし、診療の質を向上させて行きたい。

外 科

外科医長 臼井 律郎

外科外来では、以前より手・足の創の予防と治療、熱傷や肛門疾患の治療のほか、外科的救急疾患患者さんへの対応、外科検診などを主たる業務としてきた。同時に、手足の慢性創などで治療を受けていた患者さんが、創の治癒後にセンターなどで予防処置を継続中に新たに問題を生じた場合、再び外科治療を行ったのち改めて生活区域での処置に移行するための診療も行ってきた。またここ数年は、陥入爪の患者さんに対し近年開発された治療法による治療を行ってきたが、令和2年度にはこれを発展させ、希望する入所者の方々に定期的に爪のケアを行い、必要があれば医療へつなげるための「爪外来」を、看護師チームのイニシアティブで行っている。令和4年度には、外科外来において延べ322名の患者さんの診療を行い、また、爪外来では延べ100名の入所者さんのケアを行った。

従来、当科においては、手足創の処置のうち可能なものをセンターなど生活区域へ移行させ、外来受診による患者さんの負担を軽減してきたが、近年では、インフルエンザやコロナウィルスに対する感染予防の観点からも、この方針を維持・徹底している。また、手足のケアを治療棟と生活区域において標準化する目的で、生活区域の看護師と適切な情報交換を行って受診回数を最小限にとどめ、患者さんの負担を軽減する努力を行っている。

整形外科

齊藤 誠人

2022年度の整形外科外来の中心は、これまでと引き続き、患者さんの一般診療と健康管理となっている。一般診療は、整形外科一般と各医師の専門性を生かした診療を行っている。専門性は、脊椎、関節、腫瘍などの分野に分かれており、それぞれの専門性を生かし、時にはお互いに連携をとりながら診療に当たっている。

外来を受診される理由は大きく2つに分けられ、1つ目は非外傷性の疾患であり、2つ目は外傷であった。1つ目の理由で受診される方の主訴としては、頸部痛、腰痛、膝関節痛、肩関節痛などが多く、これらの症状の多くは、変形性頸椎症、変形性腰椎症、変形性膝関節症、変形性肩関節症など加齢に伴うことが原因で生じる変性疾患であった。また、加齢に伴う変性疾患だけではなく、長年の末梢神経障害を起因とした関節の変形の進行や、末梢神経障害による皮膚および軟部組織感染・潰瘍への度重なる治療の結果としての関節変形を呈している患者さんも多く見受けられた。慢性的な変性疾患については、鎮痛剤の内服、外用をベースとしつつ、疼痛の程度によっては必要部位への鎮痛目的の注射を行いながら、外来通院をさせていただいている。関節変形が高度でこれらの対応での疼痛コントロールが困難な場合は、術後に十分なリハビリテーションを行えると考えられる患者さんには人工関節置換術の適応を検討することになる。皮膚・軟部組織感染・潰瘍の患者さんには、皮膚科医師に相談、ご助言頂きながら診療に当たっている。

2つ目の外傷での受診は多岐に渡るが、骨折が多く、その中でも脊椎の圧迫骨折と大腿骨近位部骨折は、入院・手術が必要となる骨折であり、患者さんのADLを低下させる可能性が非常に高く、影響の大きい骨折といえる。脊椎圧迫骨折は、椎体の圧壊の進行と隣接椎体の連鎖的な圧迫骨折を防ぐため、治療としての臥床が要求され、体幹コルセット長期間着用することを強いられることになる。大腿骨の近位部骨折は、基本的に手術が必要となるが、近年高齢化も大きな原因ではあるが、様々な合併症を抱える患者さんも多いこともあり、心肺機能が手術に耐えられないと判断された場合、他院にて手術を断られるケースも出てきており、患者さんの疼痛コントロールに苦心するとともに、今後の歩行機能の再獲得をあきらめなければならないというケースが散見された。

いずれのケースでも、高齢化が進んでいる患者さんのADLの低下をどれだけ防ぐことができるかが重要であり、疼痛のために動きたくない、動かせないという状態を減らせるよう、できる限りの疼痛コントロールを行いながら、体力・筋力の低下そして廃用の進行を防ぐことが必要である。外来、入院にかかわらず、リハビリテーションは運動器疾患において非常に重要なパートを占めており、リハビリテーション科医師、OT、PTさん、病棟外来看護師、装具士さんのご協力のもとすでに多くの患者さんへの介入を行って頂いているが、今後もより一層連携を深めていくことを心がけたい。

また、特に骨折予防という観点から、骨粗鬆症への対応が非常に重要な課題となっている。心肺機能の影響で手術ができない場合、強固な固定ができず、除痛に難渋することになる。そのような患者さんを減らすためにも、まずは骨折を予防することが重要となる。当科では年に1-2回、骨密度の測定検査を行っている。骨密度の検査は非侵襲的であり、整形外科を定期的に受診されている患者さんには積極的に声がけして検査を受けて頂いている。これからも引き続き、骨粗鬆症と骨折リスク、そして骨折予防の重要性についての啓発を行っていく予定である。

専門医皮膚科

皮膚科医長 山崎 正視

令和4年度の皮膚科外来で多く見られたのは、昨年度と同様で、胼胝、胼胝下潰瘍、外傷、熱傷、白癬、カンジダ性指間びらん症、皮脂欠乏性皮膚炎です。また、帯状疱疹、単純性疱疹、丹毒、蜂窩織炎も数例ありました。入室が適応になった患者は、難治性皮膚潰瘍、蜂窩織炎、足趾の骨髓炎などで、他科で長期に入室している患者に、カンジダ性間擦疹、褥瘡などの合併がありました。

ハンセン病回復者は知覚鈍麻のために外傷・熱傷を繰り返し、2次感染を合併することもあり、難治性皮膚潰瘍に進展することも少なくありません。フィブラストなどを使用しても、肉芽組織はなかなか増殖せずに創傷治癒は遅延します。従って、わずかに増生した肉芽組織を温存するため、膿瘍や壊死組織のデブリドマンを必要最小限にし、できるだけ保存的に根気強く加療することが重要です。

令和3年度のハンセン病国内新規患者は再発例も含め5例で、すべて在日外国人であり、インド人2例、ネパール人1例、インドネシア人1例、フィリピン人1例でした。当科では主治医の先生からの依頼があれば、可能な限り当該医療機関に出張し、診察、スメア検査、組織の特殊染色を施行し、PCR検査をハンセン病研究センターに依頼します。令和4年度は帝京大学から1例（12歳男性、インド人、TT型）、慈恵医大から1例（38歳男性、インド人、BL型）、豊岡市民病院から1例（31歳女性、フィリピン人、BL型）、岐阜大学から1例（27歳男性、インドネシア人、BL型）の診療依頼がありました。また、都立広尾病院から1例（39歳男性、ネパール人、TT型）の御紹介があり、当科で治療を行っています。今後も一般医療機関への診療協力を継続します。

令和4年度業績（発表）

1. 山田悠人、石井則久、山崎正視ほか：サリドマイドにより治療したらい性結節性紅斑の1例.第122回日本皮膚科学会総会.横浜. 2023年6月1日
2. 長久大介、藤井鷹矢、延山嘉眞、朝比奈昭彦、山崎正視、石井則久：知覚異常を伴う皮疹から診断し得た在日インド人のハンセン病症例. 第87回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京. 2023年11月18日

眼 科

杏林アイセンター
非常勤眼科医師 松本 杏奈

眼科は非常勤体制で独立行政法人国立病院機構 埼玉病院および杏林大学医学部眼科学教室の医師で行っております。月曜日は杏林大学医学部眼科学教室より慶野教授、火曜日は埼玉病院より吉田医師と視能訓練士、金曜日は松本が担当しております。

眼科の受診者は施設内の100人程度で、主にハンセン病の眼後遺症による外眼部障害で、その病態は兔眼や兔眼性角膜炎に伴う角膜混濁や角膜らい腫による角膜混濁、帯状角膜変性症であります。その他は加齢に伴う白内障やぶどう膜炎に続発する白内障、微細な炎症に伴う慢性虹彩毛様体炎が見られます。またハンセン病患者による眼科領域への影響について前任の重安医師が2019年に日本眼科学会雑誌に詳細に報告しております。

現在、当科は非常勤体制で手術加療は行っていない為、白内障手術の希望患者には東京都立病院機構 多摩北部医療センターや国立病院機構 東京病院にご協力いただいております。また近隣の先生方には緊急時のご対応をいただき、感謝申し上げます。引き続きよろしくお願いいたします。

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科医長 中井 淳仁

平成20年度以降医長1名のみで診療を行っている。専門医資格更新に必要な学会出席のため、年に数回休診とさせていただいている。

入所者数の減少に伴い、1日に当科で診療する患者数は15名前後のことが多くなり、ゆるやかな減少傾向が続いている。

診療の内容としては、かなりの部分がハンセン病の後遺症である萎縮性鼻炎に関係した鼻腔の清掃で、残りは、一般の高齢者に見られる難聴・中耳炎・鼻副鼻腔炎・咽喉頭炎・嚥下障害などへの対応である。また、認知症などの患者を対象に定期的な耳垢除去を行っている。

今年度入所者検診は始めた時期が遅くなったが、60名に対して行った。

年2回の職員検診では、約30名を対象に聴力検査を行っている。

引き続き各不自由者棟等での誤嚥・窒息対策の講習も行っている。

手術その他の専門的医療が必要な症例や専門家の診断を仰ぎたい症例については、適宜疾患分野に応じた専門家のいる医療機関へ委託診療を行うこととしているが、年に0～1件となっている。

リハビリテーション科

リハビリテーション科医師 紙本 貴之

2022年度はリハビリテーションの処方、生活指導、義肢・装具の調整、家屋調査などを中心に業務をさせていただいておりました。ハンセン病にともなう末しょう神経障害による感覚障害や運動麻痺などがある中で、筋力低下、関節可動域制限などがあり、さらに重複する内科的疾患や整形外科的な疾患、創などに合わせて適切な理学療法、作業療法、言語聴覚療法を組み合わせるリハビリテーションおよび装具の処方を行いました。徐々に園内居住者の方々の高齢化が進んできているため、リハビリの負荷や頻度を調整しながらも、生活の質を落とさないように支援を行いました。また外来で、年に一回の検診および定期評価として、歩行能力やバランス能力、下肢筋力を評価しておりました。

必要に応じて内科や整形外科から骨折や肺炎、心不全などの急性期疾患に対するリハビリテーションとして、安静度や負荷量を設定しリハビリテーション処方や嚥下機能に合わせた食形態の調整、退室時の能力に合わせた家屋環境調整などを行いました。

食事に関しては、栄養科と協力をして粥ゼリーという形態ができ、活用される場面が増えてきております。おかゆの栄養素はそのままにして、たとえ固形物が飲み込みにくくなっても、ゼリーのように食べやすい状態になっています。その他様々な補助食品があるので、我々にご相談いただければ様々なご提案ができると思います。検診では、ご希望のある方には、嚥下機能の評価を実施させていただくようになりましたので、最近よくむせるなどか気になることがあれば気軽にご相談ください。

また、コロナウイルスの蔓延により人々の活動量減少が世界中で見られました。イベントなどが行われなくなってしまうため、家の中や部屋にこもってしまう時間がどうしても長くなってしまいます。不活動を少しでも減らすためにリハビリテーションはとても重要な役割を担っていると考えています。また、リハビリテーション治療はどうしても、人が集まり人と人が接しながら治療をする場面が多くなるため、感染リスクが非常に高くなるため危険と判断されてしまい、また不要不急なのではないかという声も上がっていました。しかし、我々も十分に感染対策に配慮し、入所者の皆様に継続して訓練を行っていただけるように心がけておりました。入所者と職員の皆様のご協力もあり、大きなクラスターなどの発生がなくリハビリを続けることができたことはとても良かったと思います。

理学療法部門（PT）

定員：定員枠 6 名

理学療法士長 1 名（鈴木）、理学療法士 5 名（崎野、高田、時任、於久、佐々木）

年度を通して時短勤務や育児休暇、介護休暇等を取得した職員はいなかった。

※コロナ関連の特別休暇取得による連続休暇取得（7 日～10 日）が PT・OT・ST・PO 全体で今期 6 回あった。

【理学療法部門における実績傾向】

月報集計より

理学療法部門の実施件数の月平均は 909 件であった。前年度より約 70 件減であり、2019 年（令和元年）以降、40 件～95 件の増であったものが、今年度初めて減少に転じた。入所者数の減による影響と、理学療法の新規処方件数が月平均 1 件以下であることが影響したものと思われる。個々の理学療法の内容については、個別療法、徒手療法の割合がほとんどであり、遠位見守りによる自主的トレーニングレベルの運動療法を実施できる対象者は少なく、心理的課題に対するサポートを重視した理学療法の重要性が増している。

“カンファレンス件数”（死亡終了後のカンファレンスを含む）

理学療法部門の参加率は 100% であった。今年度月平均 1 件であった。

“ベッドサイド理学療法件数”

ベッドサイドでのターミナル患者への理学療法の需要増加を予測し、令和 3 年度より部門ごとの集計としたが、令和 4 年度は月平均 128 件で昨年度と同等であった。理学療法部門全体の件数は減少の中、ベッドサイド件数が維持されたという事は需要があったと考えられる。

“家屋評価・調整件数”

令和 4 年度は月平均 5 件で微減傾向にあった。対象者の身体機能の回復の限界や居室空間の修繕や変更に対する許容範囲の狭小化により、病棟入室後の退室準備の際、環境調整ではなく、受け入れ側（センター側）の人的な体制調整により退室を完了するケースがあることもその一因と考えられる。

【リハビリテーション科 定期評価（PT 部門）】

9 月下旬から 3 月上旬にかけて Functional Reach と Time Up To Go Test の 2 つの評価項目に対して検査測定をおこなった。今年度は開眼片脚立位と 5 回立ち上がりテスト（FTSS）の 2 項目についてリハビリテーション科医師が診察時に検査測定をおこなった。合計 64 件の検査測定をおこ

なった。

【会議分担】

リハ科として委員に選出され、1回／月以上ある会議8つの分担として、理学療法士長に限定されたものを含め6つの会議を理学療法部門で分担した。また、令和2年度、薬剤科長を通してお話があった広報委員会へ医療（二）からの委員選出は、今年度、栄養管理室長が受けた。今後の参加形態は不明。また、令和5年1月から一般舎建て替えに伴う検討会議（部会）のメンバーに医療（二）から理学療法士長が選出され、図面への意見を会計課施設管理と共におこなった。

詳細以下、管理・診療会議（PT士長）、園内感染対策委員会（PT士長）、医療（二）部会（PT士長）、医療安全推進部会（PT崎野）、褥瘡対策委員会（PT佐々木）、認知症ケアチーム会（PT於久）、認知症リハビリチーム会（OT室川、清水）、NST委員会（ST柴山）園内情報システム委員会：必要時開催（PO菅野）医療機器整備委員会（PT士長1回／年）電動車椅子委員会（PT士長：令和3年度、4年度：開催実績なし）

【勉強会等講師依頼への対応（理学療法部門）】

4月3日「リハビリテーション科の紹介」20分：庶務課（PT士長鈴木）

5月13日「ボディメカニクス」60分：看護部教育担当（PT士長鈴木、PT 4名）

9月16日「転倒防止」30分：1センター（PT士長鈴木）

3月23日「シーティング」30分：やすらぎ病棟（PT於久）

【研究・リハビリテーション科医師からの依頼】

過去5年分のリハビリ機能検査集計に伴う人選依頼があり、PT高田を選出した。

（文責：理学療法士長 鈴木 広美）

作業療法部門（OT）

定員：定員枠2名（室川、清水）

令和3年度OT 1名欠員だったが、今年度1名が新規採用（新卒者）となり、定員を満たし業務を実施した。

ハンセン病後遺症や加齢、長期にわたる代償的な生活動作の習慣化等が起因と思われる頸部や肩周辺部の慢性的疼痛の増悪、また、昨年度から引き続き全国的な新型コロナウイルスの感染対策による行動制限から、活動性や認知機能、ADL、IADL能力低下につながった可能性がある入所者の身体心身機能の維持改善を目的に介入を進めた。

今年度の実施件数月平均321件で前年度より4件増加した。新患件数の平均1.3件で前年度より0.3件増加した。また、2022年度OT介入全患者総数のうち、1病棟は154件で前年度より24件増。やすらぎ病棟は212件で前年度より10件増。第1センターは440件で前年度より40件増。第3西センターは376件で前年度より97件増。一般舎は202件で前年度より24件増であった。昨年度から継続している集団棒体操（やすらぎ病棟及び1センター）の参加件数は62件で前年度より16件増であった。

上記要因として、一昨年の4か月間1名体制から2名体制になり、患者対応人数が増加したことが考えられる。一方で、外来は11件で前年度より3件減、また、ベッドサイド介入件数は128件で、前年度より1件減、家屋評価は5件で前年度より2件減であった。精神科処方による神経心理検査（認知症検査）全14件のうちOT実施が9件。前年度より1件減であった。

認知症リハビリテーションチーム（委員長リハビリテーション科医師、検査科技師、OT2名）の新たな取り組みとして、認知症予防対策の一環で、2022年10月3日から、月2回を予定し、「全生いきいきリハ」を行った。これは運動と認知課題を組み合わせたプログラム「コグニサイズ」^{※1}で構成され、通常のリハビリテーションとは異なり、所属寮にとらわれず、楽しく参加できることを目的とした。OTは主にプログラムの作成および司会進行を行った。2022年は11回開催で合計39名参加（平均参加人数3.5名）となった。委員会活動として、認知症リハビリテーションチーム会議にOT1名が参加した。（月1回）

※1 英語のCognition（認知）とExercise（運動）を組み合わせた造語で、運動と脳トレ課題を組み合わせた内容で認知予防効果が高いと推奨されている。

今後についても引き続き身体機能に加え認知機能低下による生活困難者の増加が予測されるため、予防を含めた作業療法的介入が重要と考える。

（文責 作業療法士 室川由美子、清水繁範）

言語聴覚療法部門（ST）

定員：言語聴覚士1名

入所者に対して、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害、認知機能障害、全般性精神機能障害に介入した。

言語聴覚療法実施件数及び単位数は統計資料の通りである。実施件数は昨年度より平均1.75件/月減少した。特徴としては、COVID-19の感染症対策による活動制限のため、入所者がリハビリを休まざるを得ない機会が増えたことがあげられる。また、入所者の高齢化に伴い、摂食・嚥下障害や認知症の対象者がさらに増加しており、その重症度も上がってきている。そしてそれに伴い、居室またはベッドサイドでのリハビリや、食事に関する相談も増加傾向にある。特に認知症に関しては重症度が高い方が増えており、多くの場合は拒否的な言動がみられ、その結果リハビリの介入に苦慮するケースもある。また、認知症による嚥下障害も増加傾向にある。いずれの場合でも、重症

化する前段階での予防的リハビリでの介入が望ましい。今後もこれらの傾向は続いていくと考えられる。

その他、昨年度同様看護部による亡くなった方のデスカンファレンスの参加依頼があった。それ以外には本年も継続して、精神科依頼の認知症検査を作業療法部門と協力して実施した。

新たな取り組みとして、嚥下機能の定期検診をリハビリテーション科医師の指示の下行うことになった。年度前半に準備・作成し、年度後半より実際に運用を開始した。

- ・〈園内講義〉（嚥下に関する勉強会） 2件
- ・〈カンファレンス〉 2件
- ・嚥下機能定期検診 29件

（文責：言語聴覚士 柴山 聡美）

義肢装具部門（PO）

定員枠：義肢装具士2名にて義肢装具製作・適合業務を実施

ハンセン病後遺症患者に対し義肢装具の製作・適合・修理のほか、日常生活活動援助のための自助具製作や入所者の家屋改修なども行っている。装具は、後遺症による難治性潰瘍に対する治療の一環として製作することが多く、装具の不適合は潰瘍の悪化に繋がるため、他科と積極的に協力しながら調整や免荷方法の提案、経過観察などを細やかに行った。義肢装具処方を受け対応した実施件数は義肢装具実施件数表の合計の値であるが、その他に微調整や修理を多数行っているため、「調整等」として件数を計上している。患者数の減少に伴い件数は減少傾向であるが、患者の超高齢化による身体機能低下に伴った義肢装具・自助具の細かな調整や、居室での転倒リスク増加に対する居室内の保護など様々な要望に可能な限り対応した。

その他の活動として他科の勉強会や実習での講義、ハンセン病資料館への協力を行った。

〈園内講義〉

- ・看護部「Foot Wearに関して」
（令和4年11月14日） 後藤 直生
- ・看護学校の在宅看護論実習において、「義肢装具について」
（令和4年8月30日－31日） 後藤 直生、菅野 太洋

〈ハンセン病資料館への協力〉

- ・ハンセン病資料館にて令和4年3月12日～8月31日に開催された「生活のデザイン展」におい

て、講演会「生活のデザインができるまで－願いをかたちにする人びと－」の講師を務めた。
講演の様子はYouTubeにて公開されており、園ホームページのトピックにもリンクが掲載されている。

第1回 令和4年7月31日 菅野 太洋

第2回 令和4年8月6日 後藤 直生

- ・ハンセン病資料館にて令和4年3月12日～8月31日に開催された「生活のデザイン展」の新聞社取材に協力した。

日本経済新聞 令和4年7月15日号 に掲載

朝日新聞（夕刊）令和4年8月23日号 に掲載

（文責：義肢装具士 菅野 太洋）

放射線科

診療放射線技師長 佐藤 敬

令和4年度、放射線科の業務として通常診療と入所者検診および職員の健康診断を主とした一般撮影、CT、骨密度検査、上部消化管検査等を行った。スタッフも前年から継続し3名体制（常勤2名、再任用1名）で行っています。提示した表より業務状況の変遷を見ると入所者の減少等に伴い、一般撮影系は年々減少傾向となっている。他のCT検査などは増減が一定ではなく変動の傾向が一律ではない。しかし、令和2年度より開始した骨密度検査は、前年とほぼ同等の検査数を維持していた。日常の検査目的として、転倒等による頭部外傷CTや骨折疑いの一般撮影も少なくなく、骨密度検査を行い診断することで予防的な医療へ繋げられるものとする。歯科撮影では立位困難な方が増えてきたことでパノラマ撮影の代用となる検査法が検討されている。

放射線管理面では、コロナ禍の影響などにより延期されていた東京都福祉保健局の立ち入り検査が行われ、関係書類等の確認が実施された。医療法の改定に伴う新しい事例もあり、園全体で認識を共有するには良い機会であった。医療安全管理の一環として行う「診療放射線の安全利用の研修」は対象受講者の意見を踏まえ、対面形式での開催を行い分かり易い講義の実施を試みています。研修を行うことでより一層、放射線検査への理解を深め法律の遵守に努められたと思います。

放射線機器の整備として高額医療機器の更新は、今後新棟への移転等も考慮し計画的に行っていく必要がある。次年度には画像系のシナプスサーバーが導入から8年経過しサポートエンドとなる。関連して画像閲覧端末も旧世代の物も多くPACSと共に更新を予定している。

放射線科では今後も入所者に寄り添った検査を心掛け、より良い医療を提供出来る様に努めていきます。

学術活動および放射線関連の研修

【研修】

令和4年度「診療放射線の安全利用の研修」 医療安全推進部会研修

講師 中 直樹 主任

【学術】

国立病院関東甲信越放射線技師会第58回学術研究会

日本放射線技師会38回学術大会

「X線撮影用患者可動椅子の紹介」 口述発表 中 直樹 主任

歯 科

歯科医長 石崎 勤

令和四年度の歯科は継続するコロナ禍を含む社会情勢の下、普遍的で安全な診療の継続および長期的診療計画に従い診療の改善を図ってきました。本年度の年間外来患者数は、1859名とほぼコロナ禍以降ほぼ同様に推移しておりますが、処置内容には変化が見られます。早期の咬合・咀嚼回復の目標から、現在の口腔機能維持と口腔衛生管理への移行です。高齢化に伴う全身的な変化と予知しえる口腔トラブルおよび全身への影響を予防すべく、専門的口腔清掃処置として歯科衛生士の居住区訪問での処置件数や診療室での歯科衛生士処置も増加させております。現在では歯科処置数の約45%を占めるようになってきました。入所者個々の口腔に全身状態・予後も含めた計画的治療を状況に合わせながら修正しながら診療・予防処置にあたっております。しかし、心理的抵抗感、全身状態または居住区により網羅までは至っておりません。今後情報共有の手段・他職種への知識、技術の伝達などを検討し口腔ケアを普遍的処置としていきたいと思っております。

オーラルフレイル（虚弱）は全身的なフレイルに先行して発現するとされています。そこでオーラルフレイルのみならず重複障害に対しては、変化が出る前または早期から将来予想を含めた歯科のアプローチにより食事・会話・嚥下等の問題予防に繋がると一般的に考えられております。また、それらの早期からの機能維持が全身的フレイルの予防につながります。当園の入所者の状態を考慮すると、時間的余裕は少ないと感じております。食事を楽しむことや会話をすることが、人たる所以の大きな要素で有り歯科はその一端を担う事を心に留めおく診療を目指し入所者様のQOLの維持・向上につながるように、歯科は次年度からも診療にあたっていきます。

薬 剤 科

薬剤科長 山崎 英明

薬剤科の理念

入所者の方々の薬物療法が安全で効果的に行われるよう他部門と連携し、医薬品及び情報を提供します。

薬剤科の基本方針

1. 園内の方々との信頼関係向上
2. 薬の正確で安全な調剤を心がける
3. 薬品情報は正確で迅速な提供
4. 薬品の適正在庫による健全な経営

薬剤科の業務

薬剤科の業務は調剤、注射、医薬品管理、医薬品情報など薬剤師4名と薬剤助手1名で日々作業しています。

2020年7月より入所者すべての方に「お薬手帳」を配布し、処方毎にシールを発行し手帳に貼付しています。手帳を導入することで全ての診療科の処方が時系列で容易に確認することが可能となり、さらに最初のページには個人ごとの処方禁忌薬が貼付しており、委託先への処方情報共有にも役立てることができます。

調剤では処方せんの記載事項を確認し、薬品名、規格、用法用量、相互作用、禁忌薬など内容確認（処方監査）、薬袋の記載事項、服用方法確認の後、調剤を実施しています。

注射薬においても処方監査の後、払い出し数量、施用歴の把握など適正使用を前提とした管理を心掛けています。

医薬品管理では使用の際、安全かつ有効に管理保管し、購入、在庫、供給の適正化をはかり経済性を重視しています。後発医薬品使用促進では数量割合で85%を目指し、本年度は後発医薬品で86.4%を達成しました。

医薬品情報では薬剤委員会資料、薬剤科ニュースなど情報の収集、加工、整理し、医療関係者へ伝達。入所者さんに対してもお薬説明書など医薬品に関する情報を提供いたします。

その他、医療安全管理室などに参画し、研修会、勉強会で適切な薬物療法、医療事故防止に努めています。

研究検査科

臨床検査技師長 莊司 路

研究検査科は、精度の高い検査結果を迅速に報告し、入所者に安心・安全で質の高い医療を提供できるよう努めています。

令和4年度は、臨床検査技師7名（常勤：6名、再任用1名）で、検体検査（生化学・免疫・血液・一般）、微生物検査、病理検査、生理検査業務を行いました。

【業務改善報告】

（1）臨床検査技師による心エコー・頸動脈エコー検査の実施

心エコー・頸動脈エコー検査は、昨年まで他院で実施していましたが、入所者の負担軽減と迅速な結果報告を目的に、2022年6月より園内検査として実施することになり、2023年3月までに心エコー検査17件、頸動脈エコー検査29件を実施しました。

園内検査としたことにより、心電図検査で異常所見が見られた際に、心エコーで確認するなど医師と密に連携し迅速な対応ができるようになりました。実際に、心筋虚血や心嚢液貯留の所見があり、他院に緊急搬送されたという症例や、頸動脈エコーの実施により頸部血管にプラーク（コレステロール・中性脂肪）が蓄積され経過観察が必要な症例などに対し適切な対応ができるようになりました。

（2）生化学・免疫検査自動分析装置（VITROS XT7600）導入による試薬購入金額の削減

検査コストの削減として、2022年3月より生化学・免疫検査自動分析装置TBA-ci4100から、VITROS XT7600へ変更し本格稼働を開始しました。

機種変更により検査試薬の有効期限切れにともなう廃棄がほぼなくなり、年間2,683,887円（約19%）の試薬購入金額を削減できました。

【TBA-ci4100】2021年3月～2022年2月の試薬購入金額

（生化）7,464,600円

（免疫）6,510,333円 → （合計）13,974,933円

【VITROS XT7600】2022年3月～2023年2月の試薬購入金額

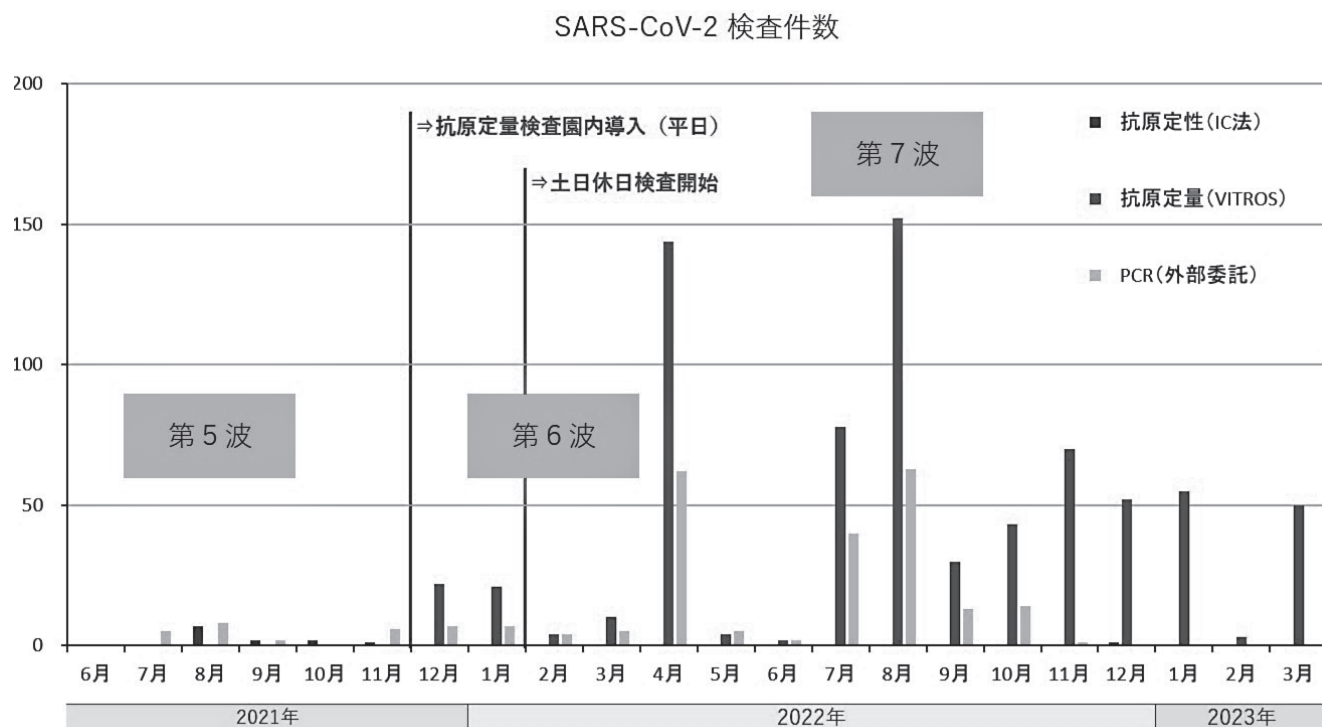
（生化）5,452,790円

（免疫）5,838,256円 → （合計）11,291,046円

（3）SARS-CoV-2抗原定量検査の園内導入

SARS-CoV-2 PCR検査は、外部委託検査であり結果報告が翌日になっていましたが、2022年12

月よりSARS-CoV-2抗原定量検査を園内導入し、約1時間で結果報告が可能となりました。また、2022年2月からは、土日祝日もSARS-CoV-2抗原定量検査ができるよう検査体制を構築し、園内感染防止にもつなげられるようになりました。



栄養管理室

栄養管理室長 森山 裕

令和4年度は、管理栄養士3名、調理師10名、事務員1名と委託職員15名でスタートしました。（調理師人員不足のため、朝食については全面業務委託となっています。）

おいしく楽しめる食事提供の取り組みとして前年度に引き続き、新メニューの開発を行いました。その一環として手作りハンバーグ、手作りサンドイッチ、手作りゼリーなど手作り料理を導入して心のこもった食事提供を目指しました。

栄養管理面では、摂食嚥下困難者向けの嚥下調整食である「ソフト食」について栄養強化のための工夫をおこないました。NST（栄養サポートチーム）活動をはじめとして各部署と連携し食事対応を行っています。

その他、入所者さまからご要望の挙がっていた「一般寮における新食器導入」について、年間を通して準備を進め、年度末の3月から開始することができました。

主な行事食

4月	園内たけのこ掘り 観桜会	たけのこ御飯 花見弁当 桜餅 甘酒	10月	スポーツの日	フルーツ盛り合わせ
5月	子供の日 新茶味見会	柏餅 新茶 水ようかん	11月	文化の日 新嘗祭	デザート おにぎり
6月	和菓子の日 夏至	和菓子 フルーツヨーグルトホイップ	12月	冬至 クリスマス 大晦日	かぼちゃ ローストチキン ケーキ 年越しそば
7月	七夕 お盆 海の日 土用の丑	水ようかん おはぎ シーフードカレー 鰻蒲焼き	1月	お正月 鏡開き	おせち料理（1日～3日） 正月用お茶 おしるこ（やわらか餅）
8月	山の日 お盆 超早場米	デザート おはぎ 九州産超早場米	2月	節分 バレンタイン	福豆 チョコケーキ
9月	敬老の日記念日 十五夜 敬老の日 お彼岸 開園記念日	ぶどう 甘酒 お月見和菓子 お赤飯 おはぎ 折り詰め弁当	3月	ひなまつり お彼岸	ちらし寿司 おはぎ 甘酒

第1病棟・中央材料室

看護師長：菅谷 恵美

1. 病棟の特色

1) 病棟

内科・外科病棟として急性期の役割を果たし、緊急の入室に対応している。高齢化に伴いハンセン病による重複障害や認知症、他の合併症などから、身体の不自由度が増しているため、多職種と連携しながら入退室の調整を行っている。また、高齢化に伴い終末期の過ごし方を居住区と共に検討し、患者の心に寄り添い、その人らしく、安寧を保ちながら、より良い時間を過ごし最期を迎えることができるよう援助を行っている。

その他、園外から再入園を希望する患者の受け入れも行なっている。

2) 透析室・中央材料室

透析の技術的対応のみでなく、日常生活や食事の管理、気分転換など、精神的なケアにも取り組んでいる。シャント増設やシャントトラブルは、外部病院でフォローしている。中央材料室では、中央管理に切り替えるなど、無駄のない適切な使用に取り組んでいる。

2. 病棟目標

1. 入退室の円滑化を図る
2. 多職種カンファレンスの推進
3. 部署間の連携と協働の強化
4. ワークライフバランスの推進
5. 5 S活動による物品の最適化を図る

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員								
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外				
			再任用			介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤
看護師長	1	1												
副看護師長	1	1												
看護師・准看護師 (上記以外)	24	24												
看護助手・介護員	3							3	1					

2) 看護・介護方式

3) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	2名
日勤	8:30~17:15	12名	日勤	8:30~17:15	1名
準夜	16:30~1:00	2名	遅出	9:00~17:45	0名
深夜	0:30~9:00	3名	遅出	10:00~18:30	0名
二交代	16:00~9:15	1名	深夜		名
遅出	12:30~21:00	0名	当直		名

4. 患者の状況

1) 入院患者（前年度）

1日平均患者数	10.5名
平均在院日数	154日
病床利用率	34.9%
平均年齢	87歳

4) 看護度

	I	II	III	IV
A	0	0	0	0
B	0	3	0	2
C	0	2	2	0

2) 疾患別構成（前年度）

整形外科疾患(骨折他)	9名
その他(生活困難など)	35名
呼吸器系疾患	8名
皮膚疾患	4名
消化器系疾患・食思不振	13名
循環器系疾患	7名
脳神経疾患	9名
精神科疾患	1名

5) 不自由度

特重	3
重	1
中	2
軽	1
一般	2

3) 手術・人工透析等件数（前年度）

手術	0件
人工透析	1件

6) ADL状況

	全介助	一部介助	自立
入浴	4	4	1
食事	0	7	2
排泄	2	5	2
移動	3	3	3

やすらぎ病棟

看護師長：松岡 千恵美

1. 病棟の特色

後期高齢者や認知症、精神的障害等のある精神科関連の病棟である。入所者は長年住み慣れた一般寮、センターでの生活が困難となり生活全般の介助を要する。日常ケアでは、ADLの低下予防、寝たきりにしないことをモットーに残存機能維持に留意している。また、その人らしく生きる人生サポートの一環として、病棟レクリエーションを充実させること、心の安らぎとして信仰している宗教への参加、舎籍のあるセンターで短時間であっても過ごす時間を提供する等、日々の生活の中に安らぎと楽しみを得られるよう援助している。

急性期病棟の後方病棟として点滴、酸素吸入、吸引など生活を維持するための医療処置を必要とするまたは、その可能性の高い患者を受け入れ、ケアをしている。

2. 病棟目標

- 1) 入所者の今まで生きてきた歴史や、患者・家族の意向を尊重した看護実践を行う。
- 2) 認知機能の低下を有する入所者の安全・安楽・安心のための環境調整を行い、身体抑制を削減する。
- 3) 根拠に基づいた看護・介護を実践する人材の育成を行う。
- 4) 他部署と連携し、入所者の情報共有を行い、入所者の意向に合わせた看護サービスを提供できる。

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

	配置数 (定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員								
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外				
			再任用			介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤
看護師長	1	1												
副看護師長	2	2												
看護師・准看護師 (上記以外)	24	24		2										
看護助手・介護員	5							5		1	3			1

2) 看護・介護方式

3) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00～15:30	1名	早出	7:00～15:30	4名
日勤	8:30～17:15	13名	日勤	8:30～17:15	0名
準夜	16:30～1:00	0名	遅出	9:00～17:45	4名
深夜	0:30～9:00	3名	遅出	10:00～18:30	0名
二交代	16:00～9:15	3名	深夜		名
遅出	12:30～21:00	1名	当直		名

4. 患者の状況

1) 入院患者（前年度）

1日平均患者数	15.4名
平均在院日数	3743日
病床利用率	34.2%
平均年齢	92.1歳

4) 看護度

	I	II	III	IV
A	1	0	0	0
B	5	7	1	0
C	0	0	0	0

2) 疾患別構成（前年度）

アルツハイマー型認知症	6名
血管性型認知症	2名
その他の認知症	4名
精神発達遅滞	1名

5) 不自由度

特重	13
重	1
中	0
軽	0
一般	0

3) 手術・人工透析等件数（前年度）

手術	0件
人工透析	0件

6) ADL状況

	全介助	一部介助	自立
入浴	14	0	0
食事	11	3	0
排泄	13	1	0
移動	13	1	0

第1センター

看護師長：田崎 明子

1. 不自由者棟の特色

1) 入所者の特徴

ハンセン病後遺症と高齢による重複障害及び合併症を持った不自由度の高い夫婦と、独身者を対象とした生活の場である。平均年齢は、88.2歳であり、歩行困難者や車椅子利用者は、入居者の約80%を占め、視力障害や聴力低下・認知症も併発し、介助を必要としている。

2) 看護・介護の特徴

入居者が、安全に過ごすことができ、その人らしく生活するために、看護・介護の協力で生活・健康に関わる援助を行っている。また、入居者のADLの低下に対応できるよう日常生活援助や環境整備に努めている。センター夜勤看護師が、24時間入居者の健康管理や体調変化に対応できるよう管理している。

2. 第1センター目標

- 1) 看護・介護が協力し、24時間入居者の健康を管理し、体調変化に対応できる
- 2) センター内の居室・敷地内の環境整備し、転倒予防に努める
- 3) 職員全体で入所者の情報を共有し、個別性のある日常生活援助を行うことができる

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

	配置数 (定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員								
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外				
			再任用			介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤
看護師長	1	1												
副看護師長	1	1												
看護師・准看護師 (上記以外)	23	23												
看護助手・介護員	30					3	5	22	3		6			7

2) 看護・介護方式

看護師：13寮（3名）14寮（3名）15寮（4名）16寮（4名）17寮（3名）寮ごとの受け持ち制及び一部機能別

介護長：13.14（1名）、15寮（1名）、16.17寮（1名） 1年交替

副介護長：13.14.15.16.17寮（各1名） 6ヶ月交替

介護員：各寮 6ヶ月ごと交替

3) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00～15:30	0名	早出	7:00～15:30	10名
日勤	8:30～17:15	13名	早出	7:30～16:15	0名
準夜	16:30～1:00	2名	早出	8:00～16:45	0名
深夜	0:30～9:00	3名	日勤	8:30～17:15	9名
二交代	16:00～9:15	0名	遅出	9:15～18:00	3名
遅出	12:30～21:00	0名	遅出	12:30～21:00	0名

4. 入所者の状況

1) 入居者の状況（前年度）

在籍者数	37名
現在数	33名
居室利用率	55.0%
平均年齢	89.9歳

3) ADL状況

	全介助	一部介助	自立
入浴	5	25	5
食事	4	16	15
排泄	8	17	10
移動	6	24	5

2) 不自由度

特重	9
重	11
中	6
軽	3
一般	6

4) 身体状況

全盲	2名
弱視	3名
難聴	1名
片義足	2名
両手指欠損	2名
片手指欠損	2名
認知症	10名

第3西センター

看護師長：田澤 理恵

1. 不自由者棟の特色

1) 入所者の特徴

ハンセン病の後遺症に加えて、加齢によって生じた重複障害を抱える入所者の療養生活の場である。

平均年齢は87.4歳。ADLや認知機能が低下し、歩行・入浴介助などの日常生活の支援を受けながら療養生活を過ごしている。

2) 看護・介護の特徴

看護師介護員が24時間常時滞在し、ハンセン病の後遺症や加齢によって生じた重複障害を抱える入所者が健康で安全安楽に過ごせるよう関わっている。入所者の習慣や文化を大切に、個人を尊重すると共に、心の安らぎを得て生活できる環境作りを心がけている。誤嚥防止の嚥下体操や認知症予防対策、引きこもり防止のためのレクリエーションを行い、入所者同士の交流を図っている。また、第3西センターで看取りを希望される方への体制作りを行い、最期までその人らしく過ごして頂くよう看護師介護員が連携し対応している。

2. 第3西センター目標

- 1) 安全・安楽な療養生活の充実
- 2) 第3西センターでの看取りを希望される方への体制作り
- 3) ワークライフバランスを考慮した働きやすい職場環境作り

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員								
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外				
						介護長	副介護長	左記以外	(再掲)	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤
									再任用					
看護師長	1	1												
副看護師長	2	2												
看護師・准看護師 (上記以外)	21	20		1										
看護助手・介護員	33					2	3	22	2		4			2

2) 看護・介護方式

チームナーシング・継続受け持ち制・一部機能別

3) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00～15:30	0名	早出	7:00～15:30	11名
日勤	8:30～17:15	5名	日勤	8:30～17:15	0名
準夜	16:30～1:00	1名	遅出	9:15～18:00	4名
深夜	0:30～9:00	1名	遅出	10:30～19:00	0名
二交代	16:00～9:15	2名	深夜		名
遅出	12:30～21:00	0名	当直		1名

4. 入所者の状況

1) 入居者の状況（前年度）

在籍者数	26名
現在数	26名
居室利用率	60.50%
平均年齢	87.0歳

3) ADL状況

2022年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	10	7	9
食事	3	7	16
排泄	3	7	16
移動	3	12	11

2) 不自由度

2022年4月1日現在

特重	6
重	7
中	4
軽	4
一般	5

4) 身体状況

2022年4月1日現在

全盲	2名
弱視	7名
難聴	9名
片義足	2名
両手指欠損	1名
片手指欠損	7名
認知症	13名

治療棟

看護師長：原 祐二

1. 治療棟の特色

診療科は、内科・精神科・神経内科・皮膚科・外科・整形外科・脳神経外科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科・泌尿器科・婦人科・乳腺科・リハビリテーション科の14診療科と内視鏡室である。

入所者の高齢化に伴い、生活習慣病や認知機能の低下、ADLの低下等によって、種々多様な症状が出現し、それらの治療を受けている。

看護としては、入所者の訴えを傾聴し、居住区担当者との情報交換を密にし、細やかな観察・援助を心がけている。

専門医療機関への委託診療も増加しており、各診療科がその窓口になっている。また、園外患者からのハンセンに関する電話相談を受け、医師と連携して対応に当たっている。

2. 治療棟目標

- 1) 入所者の安全・安心な療養環境を提供する
- 2) 専門性の高い心豊かな職業人としての人材育成
- 3) 働きやすい職場作り
- 4) 安定的な園の運営と地域への啓発活動

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員								
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外				
			再任用			介護長	副介護長	左記以外	(再掲)	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤
									再任用					
看護師長	1	1												
副看護師長	1	1												
看護師・准看護師 (上記以外)	15	15												
看護助手・介護員	2							2			1			1

2) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00～15:30	0名	早出	7:00～15:30	0名
日勤	8:30～17:15	19名	日勤	8:30～17:15	4名
遅出	12:30～21:00	0名	遅出	9:00～17:45	0名
準夜	16:30～1:00	1名	遅出	10:00～18:30	0名
深夜	0:30～9:00	1名	深夜		名
二交代	16:00～9:15	0名	当直		名

※1 治療棟、2・3 治療棟 2 部署で準夜及び深夜を担当している

4. 患者（入所者）の状況

1) 診療科別受診者数（前年度）

	内科	精神科	リウマチ	皮膚科	眼科	外科	整形外科	泌尿器科	耳鼻科
年間延べ人数	2072	471	23	3985	972	317	1433	160	3806
月平均	172.6	39.2	1.9	332	81	26.4	119.4	13.3	317.1

	リハビリ テーション科	歯科	透析
年間延べ人数	1300	1681	0
月平均	108.3	6.9	0

2) 検査状況と手術件数（前年度）

	超音波エコー	上部内視鏡	下部内視鏡	気管支鏡	膀胱鏡	C T	バイオプシー	手術
年間延べ人数	139	0	0	0	0	105	0	0
月平均	12.6	0	0	0	0	9.5	0	0

5. 看護師・看護助手（看護部所属）が委託診療を受ける入所者へ付き添った件数（前年度）

	入院	外来	退院	面会 等
看護師が付き添った延べ件数	20	250	22	25
看護助手が付き添った延べ件数	5	5	3	0
合計	25	255	25	25

一般寮支援室

看護師長：高倉 千明

1. 治療棟の特色

1) 人生サポート推進室

入所者の高齢化が進む中、重複障害を持ちながらも一人ひとりがその人らしい人生を送ることができるよう療養生活をサポートするために、園全体で計画的に取り組む為の調整役として、機能を果たす。

2) 一般寮支援室

一般寮入所者の健康管理、生活支援を中心とした活動を行っている。毎週居室を訪問し、感染対策の啓蒙活動、体調不良時の外来受診の付き添い、転倒防止や火災の危険に対する環境調整を行っている。

2. 治療棟目標

- 1) 入所者のライフサポート体制の構築と実践
- 2) 根拠に基づいた看護・介護を実践する人材の育成
- 3) 働きやすく、個々の意見が反映される職場づくり
- 4) 無駄のない適切な物品の使用

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

	配置数 (定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員								
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外				
			再任用			介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤
看護師長	1	1												
副看護師長	1	1												
看護師・准看護師 (上記以外)	6	6												
看護助手・介護員	4							4						

2) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00～15:30	0名	早出	7:00～15:30	0名
日勤	8:30～17:15	5名	日勤	8:30～17:15	4名
遅出	12:30～21:00	0名	遅出	9:00～17:45	0名
準夜	16:30～1:00	1名	遅出	10:00～18:30	0名
深夜	0:30～9:00	1名	深夜		名
二交代	16:00～9:15	0名	当直		名

※ 1 治療棟、2・3 治療棟 2 部署で準夜及び深夜を担当している

4. 患者（入所者）の状況

1) 入居者の状況（前年度）

在籍者数	34名
現在数	30名
居室利用率	18.40%
平均年齢	84.1歳

4) 看護度

2022年4月1日現在

	I	II	III	IV
A	0	0	0	0
B	0	0	0	0
C	0	0	0	30

2) 不自由度

2022年4月1日現在

特重	0
重	0
中	0
軽	14
一般	16

5) 身体状況

2022年4月1日現在

全盲	0名
弱視	0名
難聴	2名
片義足	1名
両手指欠損	1名
片手指欠損	0名
認知症	0名

3) ADL状況

2022年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	0	0	30
食事	0	0	30
排泄	0	0	30
移動	0	0	30

5. 訪問看護件数（一般舎の入所者の所へ一般寮支援室看護師が訪問した回数）（前年度）

年間延べ人数	7649人
月平均	695名
平日平均数	34.3名

教育担当

教育担当看護師長：緒方 純子

1. 教育実施状況

◇施設内教育委員会（前年度）

（1）目的

- ・国立療養所多磨全生園及び看護部の理念と方針に基づいて、組織の一員としての自覚を高め行動できる人材を育成する。
- ・ハンセン病療養所で生活する入所者の歴史が理解でき、人権を尊重し、社会に向けて啓発できる人材を育成する。
- ・ハンセン病療養所の職員として、専門知識・技術を習得し、看護・介護が実践できる人材を育成する。
- ・専門職業人として、自己研鑽できる人材を育成する。

（2）目標

- ・ハンセン病療養所の看護職員としての役割と責任を自覚して倫理観をもった行動できる能力を養う。
- ・入所者の歴史を理解し、人権を尊重した看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・ハンセン病及びその後遺症が理解でき、適切な看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・高齢化している入所者に対応するため、老年の特徴を理解し、看護・介護ができる能力を養う。
- ・入所者が生きていることの充実感を満たせるようにQOLの向上をはかる能力を養う。
- ・入所者、家族（保護者）、医療メンバーとの望ましいコミュニケーションを図るための能力を養う。
- ・医療やハンセン病療養所の動向に目を向け、今日的な専門知識・技術を習得し、看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・臨床看護研究や研修を通じ、ハンセン病看護の専門性及び看護・介護の質的向上を図る。

（3）内容

研修名	目標	対象者	人員	実施日
新採用者 オリエンテーション	国立療養所多磨全生園の一員としての自覚を持ち 役割と責任を認識する	新採用者 中途採用者 異動者	23名	令和4年4月1日 ～5日
移動・移乗の介助 (看護師レベルⅠ) (介護員レベルⅠ)	入所者の状態に合わせた安全な移乗・移動介助が できる	看護師 介護員	5名	令和4年5月13日
メンバーシップ (看護師レベルⅡ)	看護チーム内で自分の役割を理解し、業務を遂行 する事ができる	看護師	2名	令和4年5月18日

研修名	目標	対象者	人員	実施日
リーダーシップ (看護師レベルⅢ)	主体的にチームの一員としての役割を遂行する	看護師	2名	令和4年5月20日
後輩育成③	実習目標に沿った指導ができる	看護師	6名	令和4年5月21日
薬剤管理 (看護師レベルⅠ)	安全な与薬管理を理解する	看護師	3名	令和4年5月31日
介護記録について (介護員レベルⅠ)	介護ケアを記録できる	介護員	2名	令和4年6月1日
静脈血採血 (看護師レベルⅠ)	安全な採血と検体の取り扱いを手順に基づいて実施する	看護師	2名	令和4年6月10日
看護過程② (看護師レベルⅡ)	看護過程を展開し、根拠に基づいた看護を実践することができる	看護師	3名	令和4年6月14日 令和4年10月18日 令和5年1月16日
後輩育成② (看護師レベルⅢ)	コーチングを理解する	看護師	2名	令和4年6月15日
メンバーシップ (介護員レベルⅡ)	メンバーシップについて理解できる	介護員	1名	令和4年6月21日
リーダーシップ (介護員レベルⅣ)	組織におけるそれぞれの役割とリーダーシップを理解し、自部署の問題点を解決する手法を学ぶ	介護員	7名	令和4年6月24日
リーダーシップ (介護員レベルⅢ)	主体的にチームの一員としての役割を遂行する。部署でリーダーシップを発揮し、事例を発表できる	介護員	3名	令和4年6月27日 令和4年10月11日 令和5年1月27日
フットケア	ハンセン病療養所の看護師として、フットマッサージに関する必要な知識・技術を習得する	看護師	9名	令和4年6月28日
2ヶ月の振り返り (看護師レベルⅠ)	職場に適応し、ストレスコントロールや健康管理について語る	看護師	2名	令和4年6月29日
看護マネジメント (看護師レベルⅤ)	自部署の目標を達成するための方策を見出し、他部門・多職種と連携し課題解決する	看護師	1名	令和4年6月30日 令和4年9月1日 令和5年2月17日
後輩育成① (介護員レベルⅡ)	新人介護員の支援について理解する	介護員	1名	令和4年7月7日
食生活支援 (看護師レベルⅠ) (介護員レベルⅠ)	食生活支援における看護・介護の役割がわかる	看護師 介護員	3名	令和4年7月8日
倫理③ (介護員レベルⅢ)	倫理に基づいた介護を入所者に提供できる	介護員	4名	令和4年7月12日
介護管理 (介護員レベルⅣ)	部署に必要な介護管理を理解する	介護員	7名	令和4年7月15日
業務改善 (看護師レベルⅣ)	自部署の目標を達成するための方策を見出し、問題解決の過程を学ぶ	看護師	6名	令和4年7月19日 令和4年11月9日 令和4年1月24日
看護過程③ (看護師レベルⅢ)	ケーススタディーを通して実践した看護を振り返り、自己の看護を高める	看護師	1名	令和4年7月22日 令和4年10月19日 令和年12月16日
フィジカルアセスメント② (看護師レベルⅡ)	入所者の状態をアセスメントし、緊急度を捉え、生命に関わる問題点の優先度がわかる	看護師	2名	令和4年7月26日
看護過程① (看護師レベルⅠ)	当園の看護介護記録・情報収集の方法がわかる	看護師	1名	令和4年7月29日
後輩育成① (介護員レベルⅡ)	新人介護員の不安を取り除き、職場にスムーズに適応するための支援を理解する	介護員	1名	令和4年8月26日

研修名	目標	対象者	人員	実施日
入所者が語る歴史	入所者にインタビューを行い、内容をまとめ発表する事で、自部署のスタッフが入所者の全体像を把握でき、看護・介護過程につなげることができる	看護師 介護員	9名	令和4年9月26日 ～ 令和5年1月27日
後輩育成② (介護員レベルⅢ)	主体的にチームの中心となり、指導ができる	介護員	5名	令和4年9月13日
倫理② (介護員レベルⅡ)	自己の倫理的問題を明確にする	介護員	1名	令和4年9月14日
後輩育成③ (看護師レベルⅣ)	コーチングを理解し、行動できる	看護師	7名	令和4年9月16日
倫理② (看護師レベルⅡ)	入所者の尊厳と権利を理解し、自身の抱える倫理的問題を明確にし、対処方法を知る	看護師	3名	令和4年9月20日
フィジカルアセスメント① (看護師レベルⅠ)	入所者の状態に適した観察・測定ができる	看護師	1名	令和4年9月22日
倫理③ (介護員レベルⅢ)	倫理的問題に気づき、他者へ問題提起できる	介護員	1名	令和4年9月27日
倫理① (介護員レベルⅠ)	介護倫理について理解を深める	介護員	2名	令和4年10月16日
倫理① (看護師レベルⅠ)	看護倫理について、必要な基礎知識を理解し、臨床における倫理的課題に気付くことができる	看護師	1名	令和4年10月12日
急変時の看護BLS	入所者の状態変化・急変に気づき、対応できる	看護師	10名	令和4年10月4日
後輩育成③ (介護員レベルⅣ)	現場でファシリテーターとして役割を理解し発揮できる	介護員	9名	令和4年10月25日
看護管理 (看護師レベルⅣ)	部署の管理に必要な知識を理解する	看護師	6名	令和4年10月26日
認知症介護 (介護員レベルⅠ)	認知症高齢者の介護を実践できる	介護員	2名	令和4年11月7日
輸液法 (看護師レベルⅠ)	輸液法に基づいて、指導のもと実施できる	看護師	1名	令和4年11月8日
園内認定創傷ケア 看護師養成研修	ハンセン病後遺症における屈曲指の胼胝ケア、胼胝下潰瘍等、専門的知識・技術を用いて質の高い看護を実践できる能力、及び他の看護師の指導・相談を行うことができる	看護師	1名	令和4年11月14日 令和4年11月15日
医療安全 (介護員レベルⅡ)	KYTの手法を部署の事例で実践できる	介護員	1名	令和4年11月18日
認知症ケア	認知症高齢者の看護について考える	看護師 介護員	27名	令和4年11月29日 令和4年12月13日
終末期ケア	終末期のケアに必要な知識を習得し、入所者の人生を終える時期に必要とされるケアを知る	看護師 介護員	37名	令和4年12月20日 令和5年1月25日 令和5年2月21日
1年の振り返り (看護師レベルⅡ)	日々の看護実践を振り返り、自己の成長に気付くとともに、次年度の課題を明確にする	看護師	3名	令和5年1月20日
アンガーマネジメント	アンガーマネジメントについて理解し、実践できる	看護師 介護員	20名	令和5年1月31日
後輩育成① (看護師レベルⅡ)	プリセプターとして新人看護師の不安を取り除き、職場にスムーズに適応するための支援を理解する	看護師	4名	令和5年2月8日

3. 看護学校

教育主事 押尾 知子

I. 令和4年度看護学校目標

1. 質の高い教育実践

- 1) 令和5年度カリキュラム改正に向け特色のあるカリキュラムを作成する
- 2) 看護師国家試験合格率100%を達成する
- 3) 臨床と連携し、効果的な実習指導を行う
- 4) 教員の教育のスキルアップを図る
- 5) 研究に取り組み研究成果を発表する

2. 質の高い入学生の確保と当園への就職者確保

- 1) 准看護学校訪問を実施する
- 2) 学校説明会の実施
- 3) ホームページを適時更新する（少なくとも月1回の更新）
- 4) 就職率100%を達成する

3. 働きやすい職場環境づくり

- 1) 業務改善と連携
- 2) 円滑なコミュニケーション
- 3) 取年次休暇を計画的にかつ公平に取得する

II. 教育計画（2022年4月～2023年3月）

月 日	内 容
4月4日	始業式
4月7日	入学式 第55回生 14名 入学
4月20日	健康診断（2年生）
5月11日	健康診断（1年生）
5月30日	防災訓練
6月24日	里帰り企画（卒業生来校）
6月25日	学校説明会（Web）
7月1日	学生自治会 七夕（展示）
7月21日 8月2日・20日	学校説明会
8月1日	教員夏期研修会
10月5日	学校推薦入学試験
11月1・2日	音楽祭 一般公開中止 入所者へダンス披露
12月1日	一般入学試験
12月6日	特別講演「未来に向かって歩んだ人生」 講師：山内 きみ江（多磨全生園第1センター入所者）
2月19日	第112回看護師国家試験
3月1日	第54回卒業式 第54回生 15名 卒業
3月10日	終業式
3月31日	学生寮 閉寮

4. 新型コロナウイルス感染症への対応

感染管理認定看護師 関 由貴子

1. 園内の陽性者発生状況と対応の概要

1) 陽性者発生数（2022年4月～2023年3月）

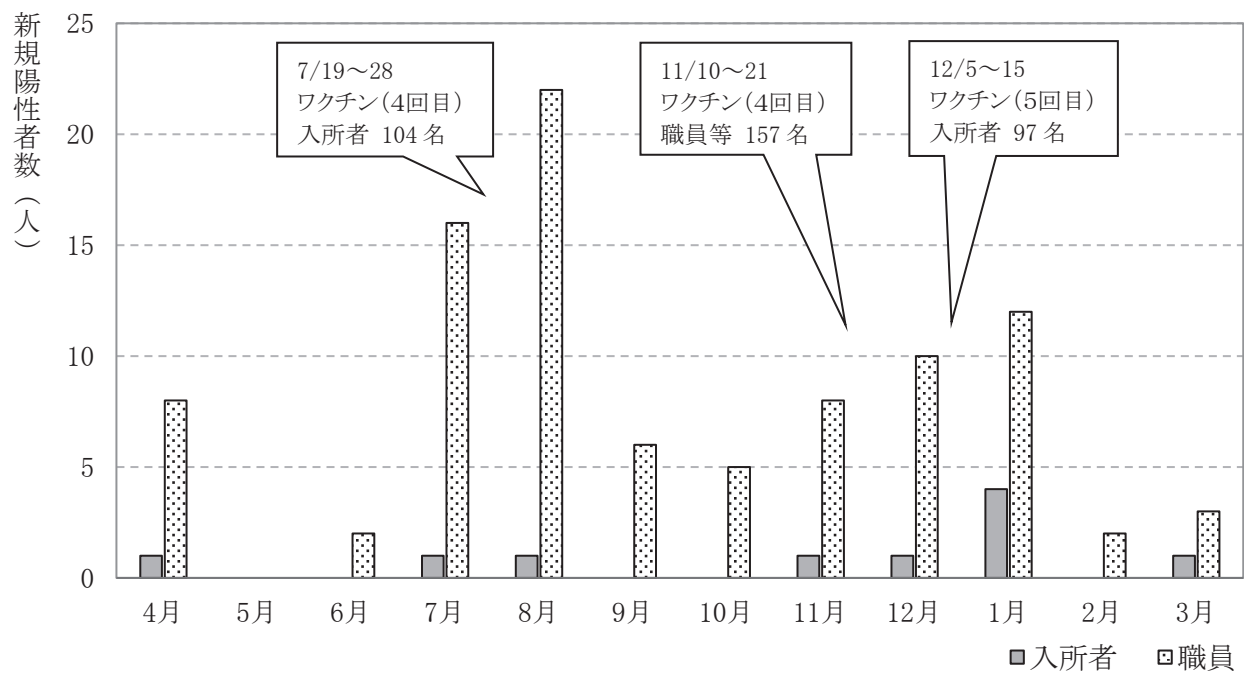
入所者：計10名

職 員：計94名

2) 園内の対応

- (1) 園外からの面会は感染拡大時に制限し、収束に合わせて再開した。
- (2) 入所者同士のレクリエーションについては、年間を通して段階的に緩和を進めた。
- (3) 入所者の新型コロナワクチン接種（4回目・5回目）を園内で実施した。

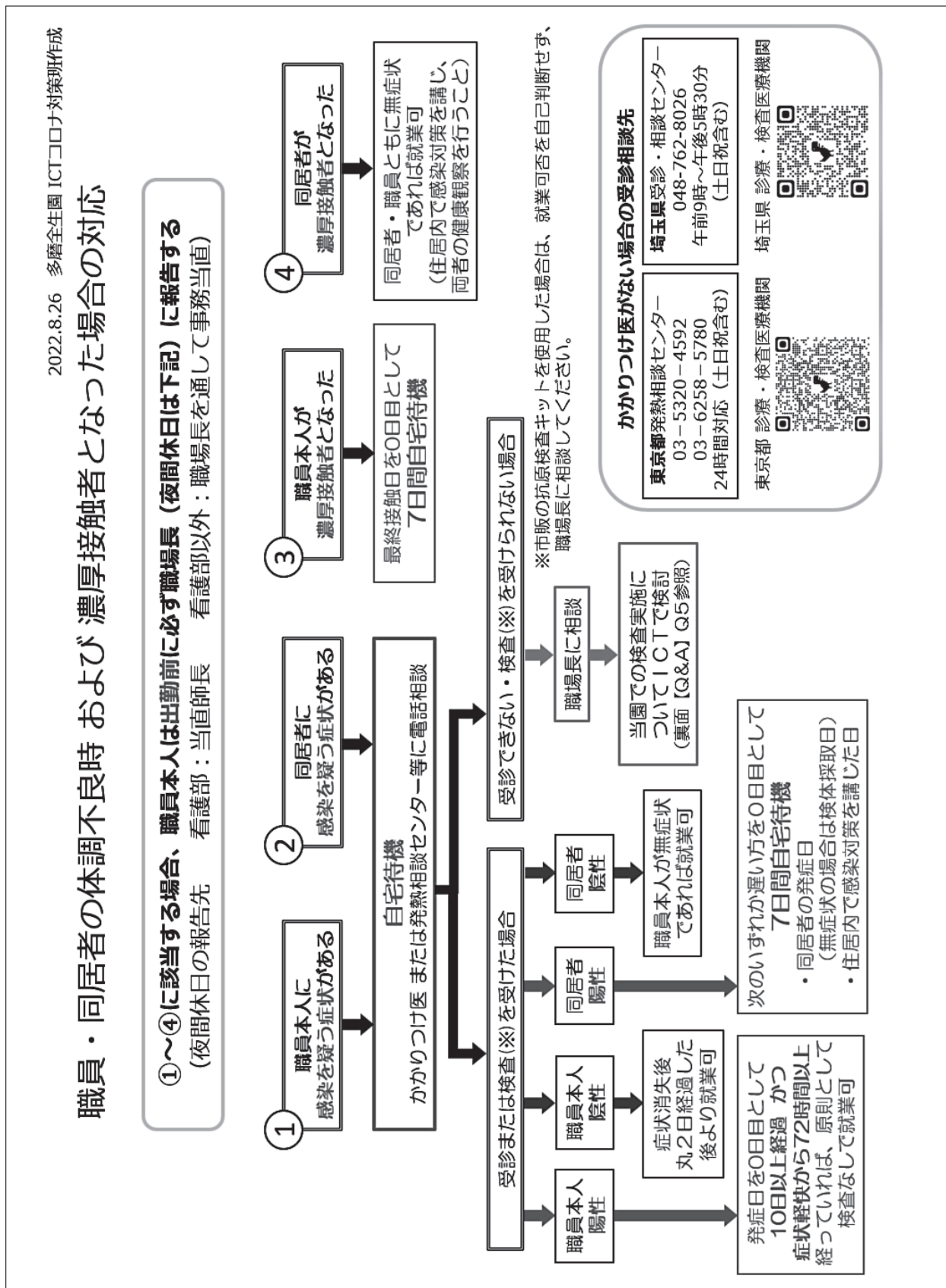
入所者の接種率：約90%



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
面会	不可 ～5/15	→←	条件付き可 5/16～7/26	→←	不可 7/27～10/23	→←	条件付き可 10/24～1/12	→←不可	→←条件付き可 1/13～2/7	2/8～		
レク	6/6～バスレク可(人数制限あり) 6/29～入所者のカラオケ・コーラス可(マスク着用) 9/14～入所者同士は屋外での飲食可 3/22～バスレクの人数制限解除											

2. 職員による持ち込み防止対策

新型コロナ陽性者及び濃厚接触者の自宅待機期間については、政府の方針により短縮されたが、当園では入所者の安全を第一に考え、職員の陽性者10日間・濃厚接触者7日間自宅待機の方針を継続した。



職員・同居者の体調不良時 および濃厚接触者となった場合の対応【Q&A】

**Q1. 「感染を疑う症状」とは、どのような症状ですか。
軽微な症状だけでも報告や受診が必要でしょうか。**

発熱（原則として37.5℃以上もしくは平熱を1℃前後上回る熱）または呼吸器症状（軽い咽頭痛や喉の違和感を含む）があり、他の原因によることが明らかでない場合、新型コロナウイルス感染症の流行下においては、感染の疑いが否定できないものと考え、職場長へ報告して出勤を控えるようにしてください。
また、発熱があった場合は、解熱剤を服用して勤務しないでください。

**Q2. 「濃厚接触者」とは、どのような場合をさすのでしょうか。
保健所の判断基準と、当園での考え方に違いはありますか。**

○「濃厚接触者」の定義（保健所の判断基準）は以下のとおりです。
陽性者（無症状者を含む）の感染可能期間（発症2日前～）に以下の接触があった場合
・陽性者と同居 または 車内などで長時間接触した
・適切な感染防護なしに陽性者の診察、看護、介護等の対応をした
・陽性者の痰や体液などに直接触れた可能性が高い
・感染防止対策（お互いマスク着用等）なしで、陽性者と1m以内で15分以上接触した
（周囲の環境や接触の状況等個々の状況から総合的に判断）

○当園では、感染が疑われる職員と入所者との間で接触があった場合、次のように判断して対応します。

- ・職員がマスクを着用していても、入所者がマスク無しであった場合
→接触が15分未満であっても「濃厚接触の可能性あり」と考えます。

**Q3. 無症状なのですが、検査をしたら陽性でした。
この場合も、10日間の自宅待機が必要でしょうか。**

無症状でも、陽性であれば自宅待機となります。その場合、検体採取日を0日目として7日間無症状のまま経過すれば、8日目から就業可です。ただし、7日間の自宅待機期間中に症状が現れたら、その日を0日目として10日間の自宅待機となります。

**Q4. 濃厚接触者の待機期間は、5日間に短縮されていませんか。
検査で陰性を確認しても、待機期間を短縮できませんか。**

当園では、濃厚接触者となった職員について、7日間の自宅待機を原則としています。ただし、ICTが状況を調査し、待機期間の短縮が可能と判断した場合は、必要に応じて以下のように対応します。

- ・最終接触日を0日目として5日目以降に、当園で抗原定量検査を行い、陰性の場合は、待機解除とします。
- ・他の職員による代替が困難で部署の業務に支障を来す場合など、やむを得ない場合は、ICTで検討し、5日目を待たずに、毎日の勤務開始前に抗原定量検査を行います。（土日祝日を除く）
陰性を確認した後より、当日の就業を可としますが、入所者との接触を避け、職員同士の接触も最小限となるようにしてください。

**Q5. 発熱などの症状があっても受診できる医療機関がなく、検査
ができない場合、いつまで自宅待機になりますか。**

職員（または同居者）に発熱などの症状があり、医療機関を受診できない場合は、以下の方法で検査を行い、職員の就業可否を判断します。

●条件

1. 職員（または同居者）の症状が軽快※後、丸2日経過していること
※解熱剤を使用せずに発熱がなく、咳などの症状が改善傾向である
2. 他の同居者に症状がないこと

●検査の方法（上記2つの条件を満たす場合に実施）

- 1日目：抗原定性検査キットを使用し、自宅で検査
→結果を本人が職場長に報告（陰性でも当日の勤務は不可）
- 2日目：1日目の検査で陰性であれば、翌日に当園で抗原定量検査実施
→2日目の検査で陰性であれば待機解除

●1日目に使用する抗原検査キットについて

- ・市販の抗原検査キットをお持ちの方は、それを使用してください。
（原則として、国が承認した「体外診断用医薬品」を使用すること）
- ・手持ちの検査キットがない場合、次のいずれかの方法で園の抗原検査キットをお渡しします。（土日祝日を除く）
①園まで取りに来る（事務本館前のロータリーで職場長より渡す）
②着払いで郵送（夏期はクール便）

5. 職員研修の実施状況

研修会名	研修内容	日程	対象者	参加者数
インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症対策 ～同時流行に備えて～	1. 園外講師による講義 2. 伝達講習 内容： ・感染症の園内持ち込み防止策 ・早期発見のポイント ・感染症発生時の対応	2022年 11月4日 11月17日	全職員	会場：52名 リンク会：11名
新型コロナウイルス感染症対策シミュレーション研修	新型コロナウイルス感染症発生に伴う2病棟開棟を想定した患者搬送と多職種連携によるゾーニングのシミュレーションを実施	2022年 7月29日	医師、薬剤師 臨床検査技師 診療放射線技師 看護師	計13名
新型コロナウイルス感染症の家庭内感染対策について	感染対策リンク会メンバーの実体験に基づく伝達講習	2022年 5月19日	感染対策リンク会メンバー	12名
新型コロナウイルス感染症発生時のBCP（業務継続計画）作成について	各部署の感染対策担当者を対象とし、感染症対策BCPの考え方について講義 内容： ・BCP（業務継続計画）とは ・なぜBCPが必要か ・業務の優先順位について	2022年 6月9日	感染対策リンク会メンバー	12名
個人防護具の使用について	園内で使用する個人防護具について、特に新型コロナウイルス感染症患者対応時の使用基準を確認	2022年 9月15日	感染対策リンク会メンバー	12名
環境整備について	接触感染防止を目的とした日常の環境整備の考え方、繁忙時の優先順位について確認	2022年 12月15日	感染対策リンク会メンバー	12名

Ⅱ 行事・園外からの受入・研修等報告

1. 令和4年度 国立療養所多磨全生園主要行事表

月	行 事 名	実 施 日 時	備 考
4月	職員紹介（観桜会）	4月5日（火）午後1時30分～	規模縮小して実施
	看護学校入学式	4月7日（木）午前10時30分～	来賓縮小して実施
5月	園内歩け歩け運動	5月11日（水）午後1時30分～	
7月	自治会七夕	7月1日（金）	
8月	納涼祭	8月4日（木）～5日（金） 午後18時45分～	会場：4日（第3西センター）、 5日（第1センター）
9月	敬老の日記念式典	9月8日（木）午後1時30分～	
	墓 参	9月15日（木）彼岸午後1時30分～	
10月	合同慰霊祭	10月4日（火）午後1時30分	
	全生園まつり（演芸）	10月18日（火）～21日（金）	
	看護学校学校関係者評価委員会	10月25日（火）午後3時30分～	
11月	全生園音楽祭	11月1日（火）～11月2日（水） 午後2時30分～	
	焼 き 芋 会	11月16日（水）	
	コメディカル学術集会	11月25日（金）～26日（土）	会場：岡山
12月	医療法立入検査	12月2日（金）	
3月	看護学校卒業式	3月1日（水）午前10時～	会場：研ABC
	墓 参	3月15日（水）	

2. 主要な視察状況（令和4年度）

来園者	年月日	備考
佐藤厚生労働副大臣	2022年6月20日	秘書官
伊佐厚生労働副大臣	2022年9月15日	医政局：医療経営支援課長、療養所対策室長、政策医療推進官 健康局：難病対策課長 その他：秘書官

3. 看護学生実習・施設見学・研修等施設利用許可状況

1. 実習受け入れ状況

1) 国立ハンセン病療養所付属看護学校

	学校名	実習者数	実習名	受け入れ期間	実習場所
1 学年	国立ハンセン病療養所 附属看護学校	6 名	基礎看護学	令和4年10月18日 ～11月1日	1 病棟 やすらぎ病棟
2 学年	国立ハンセン病療養所 附属看護学校	16名	老年看護学	令和4年8月30日 ～9月16日 9月26日～10月14日	1 病棟 やすらぎ病棟
		16名	在宅看護論	令和4年8月30日～9 月13日 9月26日～10 月14日	第1センター 第3西センター 治療棟 一般寮支援室

2) その他

	学校名	実習者数	実習名	受け入れ期間	実習場所
1	国際医療福祉大学 国際看護学領域	3 名	看護学統合実践実習	令和4年5月30日 ～6月10日	やすらぎ病棟 第1センター 第3西センター
2	上智大学 総合人間科学部 看護学科	6 名	基礎看護学統合実習	令和4年8月23日 ～8月30日	やすらぎ病棟 第1センター 第3西センター

2. 研修・見学等、その他施設利用状況

1) 申請数

月	研修・見学等		その他施設利用者	
	件数	人数	件数	人数
4	1	35	2	16
5	0	0	1	13
6	1	20	4	74
7	1	16	4	19
8	0	0	6	38
9	0	0	5	36
10	0	0	8	40
11	1	1	11	212
12	0	0	5	59
1	0	0	5	33
2	1	2	3	15
3	0	0	10	89
合計	5	74	64	644

総合計件数	総合計人数
69	718

2) 申請属性件数

属性	研修・見学等		その他施設利用者	
	件数	人数	件数	人数
NPO			26	307
保育園			1	27
企業			1	3
教職員		1	1	1
公務員	1	1		
任意団体	1	20	4	52
法曹界				
宗教団体			3	27
小学生				
中学生	1	15		
高校生				
大学生、大学院生		1	1	1
看護系教育機関				
労働組合				
報道機関	1	1	3	7
一般市民			13	70
人権啓発団体			4	23
園職員、学芸員等			4	6
医療機関			1	3
障害者支援施設			2	117
民政委員				
教育委員会	1	35		
P T A				
福祉系教育機関				
医薬系教育機関				
合計	5	74	64	644

2-1) 研修・見学等利用者内訳

◎ 入所者等語り部有り

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	資料館
1	4月21日	東村山市教育委員会	教育委員会	35	園内に駐車したバスの中から見学	新職員が市内の施設の理解を深めるための見学	×
2	6月11日	日本ハンセン病学会	任意団体	20	園内	園内の見学を行うため	×
3	7月27日	東村山第三中学校	教職員・中学生	16	園内・国立ハンセン病資料館	ハンセン病資料館の見学を通して、ハンセン病に対する偏見差別の問題について考える機会として	○
4	11月25日	テレコムスタッフ株式会社	報道機関	1	園内史跡	番組制作にあたり実際に史跡をまわるため	×
5	2月22日	里見さやか(東京都児童相談センター栄養士) 木村はるか(日本大学 医学部4年生)	公務員・大学生	2	栄養管理課	全生園における給食・栄養管理について学ぶため	×

2-2)その他施設利用者内訳

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的
1	4月21日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	13	山吹舎・耕作地 ・NPO花壇	清掃・畑作業(除草・耕作物手入れ)
2	4月27日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	3	学友寮跡地 付近	小彼岸桜植樹
3	5月19日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	13	山吹舎・耕作地 ・NPO花壇	清掃・畑作業(除草・耕作物手入れ)
4	6月2日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	柿舎・耕作地・ NPO花壇	畑作業
5	6月23日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	13	山吹舎・耕作地 ・NPO花壇	清掃・畑作業(除草・耕作物手入れ)
6	6月23日	朝日新聞社	報道機関	1	国立ハンセン 病資料館	国立ハンセン病資料館で開催中の「生活のデザイン」の取材のため
7	6月30日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	50	花さき保育園	じゃがいも掘り
8	7月1日	山崎病院	医療機関	3	正面右側竹林	院内七夕用に竹を5本程伐採
9	7月1日	社会福祉法人三篠会	障害者支援施設	2	官舎地区 竹林	老人ホーム10周年 七夕祭りに竹笹を使用するため
10	7月6日	日本経済新聞社	報道機関	1	Zoom等での オンライン取材	国立ハンセン病資料館の企画展「生活のデザインができるまで」と絡め、義肢装具士の方々が入所者に寄り添いながら、様々な義肢装具を作り続けた様子を記事で紹介したいため。
11	7月21日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	13	山吹舎・耕作地 ・NPO花壇	清掃・畑作業(除草・耕作物手入れ)
12	8月5日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	柿舎・耕作地・ NPO花壇	畑作業
13	8月6日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	6	柿舎・耕作地・ NPO花壇	畑作業
14	8月9日	東村山第六中学校	教職員	1	園内(史跡・建 築・神社)	絵画展 作品制作のため資料作成・撮影
15	8月20日	全生園テニスクラブ	一般市民	4	テニスコート	テニスコートの整備
16	8月25日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	13	山吹舎・耕作地 ・NPO花壇	清掃・畑作業(除草・耕作物手入れ)
17	8月27日	全生園テニスクラブ	一般市民	4	テニスコート	テニスコートの整備
18	9月10日	全生園テニスクラブ	一般市民	4	テニスコート	テニスコートの整備
19	9月21日	立正佼成会東村山教会	宗教団体	5	納骨堂前	全生園にまつわる諸精霊への慰霊供養
20	9月22日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	13	山吹舎・耕作地 ・NPO花壇	清掃・畑作業(除草・耕作物手入れ)
21	9月24日	全生園テニスクラブ	園職員、学芸員等	4	テニスコート	テニスコートの整備
22	2022年9 月28日～ 9月30日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	福祉サービス 棟1階会議室	多磨全生園絵画展 応募作品の整理・審査
23	10月1日	全生園テニスクラブ	一般市民	4	テニスコート	テニスコートの整備
24	10月4日	(有)オフィスクレヨン	企業	3	園内(望郷の丘 (フェンス外)・ 山吹舎)	月刊「潮」に掲載予定の作家に関する取材
25	10月4日	淑徳大学短期大学部健康福 祉学科社会福祉コース 稲葉真央	大学生	1	—	卒業論文のインタビューの為、入所者との対面は難しいので紙面(アンケート)での取材
26	10月8日	全生園テニスクラブ	一般市民	4	テニスコート	テニスコートの整備
27	10月17日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	福祉サービス 棟1階	全生園まつり展示作品準備
28	10月20日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	13	山吹舎・耕作地 ・NPO花壇	清掃・畑作業(除草・耕作物手入れ)

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的
29	10月22日	全生園テニスクラブ	一般市民	4	テニスコート	テニスコートの整備
30	10月27日	国立ハンセン病資料館	園職員、学芸員等	1	第1センター	国立ハンセン病資料館運営委員会委員の平沢保治さんがオンラインでの運営委員会に出席するにあたり、パソコンとWi-Fi端末のセットアップ及び後片付けのため
31	11月2日	土の根会 花さき保育園	保育園	27	全生園正門ロータリー	花さき保育園遠足のための中型バス一時利用のため
32	11月2日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	福祉サービス1階中央集会所	絵画展関係作業
33	11月6日	全生園テニスクラブ	一般市民	4	テニスコート	テニスコートの整備
34	11月8日	多磨全生園入所者自治会	人権啓発団体	8	福祉サービス棟研修室	ドイツの芸術家との面会のため
35	11月9日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	耕作地	あおば保育園 園児といも掘り・チューリップの植え付け
36	11月11日	東京コロニートコロ青葉ワークセンター	障害者支援施設	115	本館前・駐車場周辺	日帰り旅行 大型バスの乗降のため
37	11月17日	元人権擁護委員東村山活き活きまちづくり 細田進	任意団体	2	納骨堂	納骨堂の献花のため
38	11月24日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	山吹舎・耕作地・NPO花壇	清掃・畑作業(除草・耕作物手入れ)
39	11月26日	全生園テニスクラブ	一般市民	4	テニスコート	テニスコートの整備
40	11月28日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	柿舎・耕作地・NPO花壇	畑作業
41	11月29日	天理教むさしの支部	宗教団体	12	園内各所	植木剪定・除草作業
42	12月9日	どんぐり会	任意団体	15	新面会人宿泊所	忘年会
43	12月9日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	旧学友寮前	自治会緑化委員会依頼による植樹
44	12月14日	多磨全生園入所者自治会	人権啓発団体	15	福祉サービス棟内中央集会所	国立ハンセン病資料館収蔵庫建設についての説明及び挨拶
45	12月22日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	15	柿舎・耕作地・NPO花壇	山吹舎定期清掃・畑作業
46	12月24日	全生園テニスクラブ	一般市民	4	テニスコート	テニスコートの整備
47	1月6日	テレコムスタッフ株式会社	報道機関	5	園内森林浴道ハンセン病研究センター傍の垣根跡	北條民雄の『いのちの初夜』を特集にあたり、過ごしてきた全生園の当時の面影や生きた痕跡を彷彿させる場所を撮影するため
48	1月13日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	8	学友寮跡地付近	樹木の剪定作業
49	1月19日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	柿舎・耕作地・耕作地・納骨堂	山吹舎定期清掃・畑作業・納骨堂お参り
50	1月29日	天理教むさしの支部	宗教団体	10	野球場・園内各所	植木剪定・除草作業
51	2023年1月23日～2024年5月末	国立ハンセン病資料館	園職員、学芸員等	—	つつじ通り	国立ハンセン病資料館の収蔵庫増築工事のため、つつじ通りに仮囲いを設置する
52	2月8日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	柿舎・耕作地他	畑作業
53	2月10日	国立ハンセン病資料館	園職員、学芸員等	1	第1センター	国立ハンセン病資料館運営委員会委員の平沢保治さんがオンラインでの運営委員会に出席するにあたり、パソコンとWi-Fi端末のセットアップ及び後片付けのため
54	2月25日	全生園テニスクラブ	一般市民	4	テニスコート	テニスコートの整備
55	3月3日	特定非営利活動法人 東村山活き活きまちづくり	NPO	10	柿舎・耕作地他	畑作業・じゃがいもの植つけ

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的
56	3月12日	東村山スケッチの会	任意団体	10	園内	東村山周辺を描くために全生園の風景を描き、展示会等で発表するため
57	3月16日	特定非営利活動法人 東村山生き活きまちづくり	NPO	4	柿舎前	小彼岸桜植樹
58	3月23日	特定非営利活動法人 東村山生き活きまちづくり	NPO	10	柿舎・耕作地・ NPO花壇	山吹舎定期清掃・畑作業
59	3月25日	全生園テニスクラブ	一般市民	4	テニスコート	テニスコートの整備
60	3月26日	全生園テニスクラブ	一般市民	14	テニスコート	テニスコートの整備
61	3月26日	波田うたを顕彰する会	任意団体	25	史跡・並木通り	人権学習のため
62	3月28日	全生園テニスクラブ	一般市民	12	テニスコート	テニスコートの整備
63	2023年 4月1日 ～2024年 3月31日	多磨全生園入所者自治会	人権啓発団体	—	園内西側角地	入所者と保育園児、地域住民との交流の場とするため
64	2023年 4月1日 ～2024年 3月31日	多磨全生園入所者自治会	人権啓発団体	—	入所者売店・食堂及び簡易郵便局	入所者に対する衣食などの販売、提供及び郵便業務のため

4. ボランティア受入状況等

	実施日時等	項目（名称）	団体名	人数	主な内容
1	年間を通し、毎日	陶芸	全生園陶芸倶楽部	8名	陶芸通じて親睦をはかる
2	週1回 不定期	折り紙	四季の折り紙の会	3～5名	折り紙通じて親睦をはかる
3	年間を通し、適宜	環境整備	東村山活き生きまちづくり	5～10名	樹木の剪定、農耕地環境整備、他
4	年間を通し、適宜	環境整備	天理教むさしの支部	10～20名	樹木の剪定、除草、清掃
5	年間を通し、適宜	環境整備	全生園テニスクラブ	4～5名	テニスコートの除草、清掃、整備
6	2022年12月16日	環境整備	花さき保育園	14名	納骨堂の清掃、納骨堂ベンチ寄贈
7	2022年12月25日	環境整備・災害ボランティア	天理教むさしの支部 小金井龍郎 他	1～3名	植木剪定、コンボ操作、災害ボランティア

5. 研究活動、研修参加、倫理審査委員会状況

1. 研究発表

1) 施設内発表
なし

2) 施設外発表

番号	題 名	発表者（所属）	学会名等（場所）	発表年月日
1	不自由者棟の看護師長が介護職を支援する上で感じている困難と対処	原 祐二 梶原順子 高橋 勝 田崎明子	第34回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（岡山）	令和4年11月25 ・26日
2	ハンセン病療養所のアロマセラピーによるフットケア園内認定看護師の支援活動に関する課題ーフットケア園内認定看護師からケアを受けた入所者からの探求ー	山上由美 富さなえ	第34回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（岡山）	令和4年11月25 ・26日
3	A園におけるプリセプターが経験する困難と対処方法	辻 寿子 吉田幸子 渡邊麻里子 菅谷恵美	第34回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（岡山）	令和4年11月25 ・26日
4	A園に勤務する看護師の内服薬の与薬原則6Rの行動と与薬インシデントに繋がる傾向と背後要因の分析ー与薬原則の6Rについてのアンケート結果よりー	姜 平 辻 寿子 菅谷恵美	第34回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（岡山）	令和4年11月25 ・26日
5	「理想の介護員像」研修が受講者（副介護長）に与えた影響	岩崎徹也	第34回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（岡山）	令和4年11月25 ・26日
6	ハンセン病療養所の入所者が抱いたコロナ禍での交流制限に対する思い	岡田正之	第34回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（岡山）	令和4年11月25 ・26日
7	生活の場を支える多職種職員による感染対策演習の効果	関由貴子	第37回日本環境感 染学会（横浜）	令和4年6月17日

2. 研修参加状況

1) 施設内参加状況（看護研究会・病院主催等）

研修会名	研修内容（目的）	研修期間	職種	参加人員
2022年度 第1回園内感染対策研修 「インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症対策～同時流行に備えて～」	1. 園外講師による講義 2. 動画視聴および確認問題 （2は2/1時点で未実施） 内容： ・感染症の園内持ち込み防止策 ・早期発見のポイント ・感染症発生時の対応	令和4年11月4日、 11月17日	全職員	会場：52名 リンク会：11名
新型コロナウイルス感染症の家庭内感染対策について	感染対策リンク会メンバーの実体験に基づく伝達講習	令和4年5月19日	感染リンクメンバー	12名
新型コロナウイルス感染症発生時のBCP（業務継続計画）作成について	各部署の感染対策担当者を対象とし、感染症対策BCPの考え方について講義 内容： ・BCP（業務継続計画）とは ・なぜBCPが必要か・業務の優先順位について	令和4年6月9日	感染リンクメンバー	12名
個人防護具の使用について	園内で使用する個人防護具について、特に新型コロナウイルス感染症患者対応時の使用基準を確認	令和4年9月15日	感染リンクメンバー	12名
環境整備について	接触感染防止を目的とした日常の環境整備の考え方、繁忙時の優先順位について確認	令和4年12月15日	感染リンクメンバー	12名
第1回医療安全研修 AED・エアーストレッチャー研修	全職員が、AEDを正しく取り扱うことができる エアーストレッチャーの使用方法が理解できる	令和4年7月13日	全職種	参加者18名 伝達196名
第2回医療安全研修 Eコール研修	緊急時に各部署が協働して対応ができる	令和4年12月19日	全職種	参加者42名 伝達323名
診療放射線技師の安全利用研修	診療放射線に係る安全管理体制について理解する	令和4年7月11日 令和4年7月14日 令和4年11月11日～11月24日 (e-ラーニング形式)	診療放射線に関わる医師・看護師・放射線技師	放射線技師9名 医師17名 看護師107名
R4年度 輸液ポンプ・シリンジポンプ研修	輸液ポンプ・シリンジポンプを、正しく操作することができる	令和4年11月16日	看護師	17名 伝達106名
R4年度 心電図モニター研修	心電図モニターの基本について理解する	令和4年1月23日	看護師	26名 伝達97名

2) 施設外参加状況

(1) 厚生労働省・厚生局関係

研修会名	研修内容（目標）	主催	職種	研修期間	参加人数
令和4年度 看護部長新任研修	国立病院機構施設のトップマネージャーとしての役割と責任を認識すると共に、看護部の最高責任者としての管理能力の向上を図る	国立病院機構 関信グループ	看護部長	令和4年5月25 ・26日	1名

研修会名	研修内容（目標）	主催	職種	研修期間	参加人数
令和４年度 副看護師長新任研修	講義及び演習を通じて管理面での知識・技術を高めるとともに、看護管理者としての視野を広げ、管理能力の向上を図る	国立病院機構 関信グループ	副看護師長	令和４年６月16・ 17日 12月８・９日	2名
令和４年度看護教員 インターンシップ研修	看護学校で行っている看護基礎教育に興味関心を持つ機会とする。	国立病院機構 関信グループ	看護師	令和４年11月17日 18日	1名
令和４年度 国立ハンセン病療養所 看護管理マネジメント 研修	国立ハンセン病療養所の入所者への認知症および高齢者ケアの質の向上を通して、看護管理能力の向上を図る。	厚生労働省医政局	副看護師長	令和４年12月６日	2名
令和４年度 国立ハンセン病療養所 介護員研修	介護員の役割と責任を再認識するとともに業務遂行上必要な知識・技術・態度の向上を図る。	厚生労働省医政局	介護員	令和４年10月３日 ～30日 各施設 令和４年11月10日 (WEB)	2名
令和４年度 医療安全対策研修Ⅰ	医療機関における医療安全管理者に必要な基本的知識・技術について習得し、自施設の医療安全の質を保障する役割を担う能力養う。	国立病院機構 関信グループ	看護師長	eラーニング 令和４年10月１日 ～31日 集合（LIVE配信） 11月17日	1名
令和４年度 医療安全対策研修Ⅱ	医療安全に関する具体的な事例展開を通して制度理解・知識・技術を深め、医療事故発生時の対応を習得することで、医療安全管理体制の充実と向上を図る。	国立病院機構 関信グループ	看護師長	令和４年11月15日	1名
副看護師長施設間交流 研修	他施設にて看護管理の実際を学ぶことにより、看護管理者としての視野を広げる	全国国立病院看護 部長協議会 関東信越支部	副看護師長	令和４年９月７日 ～９日	1名
看護師長施設間交流研 修	他施設にて看護管理の実際を学ぶことにより、看護管理者としての視野を広げるとともに、看護師長としての管理能力の向上を図る。	全国国立病院看護 部長協議会 関東信越支部	看護師長	令和４年12月５日 ～７日	1名
令和４年度 認知症ケア研修	認知症患者の理解を深め、患者・家族を支援するために必要な看護実践力の向上を図ると共に地域を含めた患者・家族の介入に携わる多職種チームと協働・連携し中心的役割を果たせる能力を養う。	国立病院機構 関信グループ	看護師	eラーニング 令和５年１月10日 ～20日 集合（LIVE配信） 1月24日	1名
令和４年度 障害者虐待防止・意思 決定支援研修	重症心身障害者及び筋ジストロフィー等神経筋・難病の患者・利用者に対する虐待防止体制の更なる推進を目指した研修とする。	国立病院機構 関信グループ	看護師	令和４年10月28日	1名
令和４年度看護職員教 育担当者研修	看護職員研修における教育担当者の責任と役割を自覚する	国立病院機構 関信グループ	看護師長	令和４年11月２日	1名
令和４年度 アンガーマネジメント 研修	患者及びその関係者と病院職員とのトラブルについて、担当する職員がアンガーマネジメントを学ぶことによりトラブル対処方法を習得し、担当職員の精神的負担を軽減及び業務を円滑に遂行する	国立病院機構 関信グループ	副看護部長	令和５年２月21日	1名
令和４年 院内感染対策研修	院内感染対策に関する基本的な知識・技術等を習得するとともに、個々の職員の資質向上と関連部門との連携を強化する	国立病院機構 関信グループ	看護師	令和５年３月６日	1名

(2) 個人（自費）にて参加した研修

研修会名	研修内容（目標）	主催	職種	研修期間	参加人数
感染管理認定看護師教育課程	特定の認定分野における専門的知識や熟達した技術を用いた看護実践ができ、その分野における看護ケアの質を高めるための教育・指導を行える人材を育成する	北里大学看護キャリア開発・研究センター	看護師	令和4年7月15日 ～ 令和5年2月15日	1名
令和4年度看護管理者教育課程セカンドレベル	看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する	国立病院機構本部	看護師長	令和4年10月12日 ～12月1日	1名

(3) 県・市主催関係

研修会名	主催	研修期間	参加人員
令和4年度東京都看護教員養成研修	東京都福祉保健財団	令和4年5月9日～ 令和5年3月3日	2名
医療事故調査制度研修課	東京都医療事故調査等 支援団体連絡協議会	令和4年11月10日	5名

(4) 日本看護協会関係

研修会名	主催	研修期間	参加人員
人材育成	東京都看護協会多摩北地区支部	令和4年6月4日	2
メンタルヘルス	東京都看護協会多摩北地区支部	令和4年7月2日	1
防災	東京都看護協会多摩北地区支部	令和4年10月1日	1
高齢者看護Ⅰ	東京都看護協会多摩北地区支部	令和4年11月5日	2
高齢者看護Ⅱ	東京都看護協会多摩北地区支部	令和5年1月7日	1
新人教育	東京都看護協会多摩北地区支部	令和5年2月4日	1

(5) その他

研修会名	主催	研修期間	参加人員
令和4年度保健師助産師看護師実習指導者講習会	国立看護大学校研修部	令和4年9月14日 ～9月29日 10月12日～10月25日 11月7日～11月18日	1名
令和4年度保健師助産師看護師実習指導者講習会	国際医療福祉大学	令和4年9月6日 ～11月30日	1名
看護における倫理的課題と解決の方法	国立看護大学校研修部短期研修	動画視聴：令和4年 9月9日～15日 同時双方向型： 9月16日	1名
皆で語ろう女性の健康！交代制勤務に伴う看護師・助産師のwill-being	国立看護大学校研修部短期研修	令和4年11月2日	1名
院内教育（3日間）	国立看護大学校研修部短期研修	令和4年9月12・13・ 20日	1名
臨地実習における指導のポイントと感染対策	国立看護大学校研修部短期研修	令和5年1月25日	1名
令和4年度看護師認知症対応力向上研修Ⅰ	薫風会山田病院地域拠点型認知症疾患医療センター	令和4年10月26日	2名

(6) 座長・講師等

研修会名	氏名（職責）	座長・講師	研修日
横浜市立聖灯看護学校 心とからだの健康（アロマセラピー）	山上由美 （治療棟看護師）	講師	R 4 年 5 月 8 日 ～ 7 月 1 日
第43回ハンセン病医学夏期大学講座	菅谷恵美（看護部長）	講師	令和 4 年 8 月 27 日
令和 4 年度国立ハンセン病療養所 看護管理マネジメント研修	梅津珠子 （看護部長）	講師	令和 4 年 12 月 6 日
令和 4 年度国立ハンセン病療養所 看護管理マネジメント研修	高橋勝 （副看護部長）	講師	令和 4 年 12 月 6 日
ハンセン病看護	梅津珠子（看護部長）	講師	令和 5 年 2 月 27 日

3) 研究業績・研修参加状況

1. 施設内研修

押尾知子・軽部太一・山谷なぎさ・原口稔・大家枝利・金井千絵・吉田輝子

1) 診療放射線の安全利用について

2) 国家公務員倫理・ハラスメント

3) Eコール訓練

2. 施設外研修

1) 厚生労働省・国立病院機構

(1) 押尾知子・軽部太一・山谷なぎさ・原口稔・大家枝利・金井千絵・吉田輝子

令和 4 年度NHO関東信越グループ夏期研修会

講演：「対応が難しいと感じる学生へのかかわり方」

講師：川上ちひろ 先生 岐阜大学医学教育開発研究センター

交流セッション：「人を認めて、自分を認める」

2) その他の研修参加状況（自費）

(1) 押尾知子・軽部太一・山谷なぎさ・原口稔・大家枝利・金井千絵・吉田輝子

WEB研修会（南光堂主催）

「学生の主体性を引き出すシュミレーション演習設計」

(2) 原口稔・金井千絵・吉田輝子

WEB研修会（株式会社ネットラーニング主催）

e-ラーニングを活用した看護教員のフォローアップ

(3) 金井千絵

WEB研修会（看護ラボラトリー主催）

第 1 回 看護診断セミナー（初級コース）「看護診断 基本から見直そう」

第 2 回 看護診断セミナー（中級コース）「看護診断 アセスメント力をアップしよう」

(4) 軽部太一

WEB研修会（メディクメディア主催）

「看護過程の展開方法解説」

< 研究授業実施・参加状況 >

1) 実施

大家枝利 「日常生活援助技術（清潔・衣生活） 自校 5 名参加

< 学術集会等への参加 >

なし

< 看護教員インターンシップ実施状況 >

なし

4) 令和4年度 園内研修会参加状況 (2022/4/1～2023/3/31)

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
第3センター勉強会 「栄養状態の評価と検査データ」	R4.6.22	第3センター	第3センター教育担当	生化学・血液	望月規央 (講師)
第1回医療安全研修会	R4.7.13	福祉サービス棟 3階研修室	医療安全推進部会	医療安全	青木正哉
2022年度第1回感染対策研修イン フルエンザ・新型コロナウイルス感 染症対策～同時流行に備えて～	R4.11.4	福祉サービス棟 3階研修室	ICT	感染	渡邊孝浩、早川真奈美、立川康則
第2回医療安全研修「Eコール訓練」	R4.12.9	治療棟等	医療安全推進部会	医療安全	青木正哉
障害者虐待防止に関する研修会	R4.12.22	福祉サービス棟 3階研修室	厚生労働省	医療安全	渡邊孝浩、立川康則、望月規央、早川真奈美
第2回医療安全研修 「Eコール訓練」伝達講習	R5.1.11～1.16	映像視聴	医療安全推進部会	医療安全	渡邊孝浩、久高果市、早川真奈美、立川康則、 望月規央、平本研二
「障害者虐待防止・意思決定支援研 修」伝達講習	R5.1.30	福祉サービス棟 3階研修室	国立病院機構 関東信越ブロック	医療安全	早川真奈美、平本研二

5) 令和4年度 園外研修会参加状況 (2022/4/1～2023/3/31)

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
令和4年度 第1回 国臨協関信支部主催研修会	6月6日～6月24日	Web研修会 (オンデマンド配信)	国臨協関信支部	心のケアと 接遇	青木正哉、平本研二
第63回日本臨床細胞学会総会 (春期大会)	6月10日～7月10日	現地開催、Web開催	日本臨床細胞学会	細胞診	青木正哉
第59回東京都細胞検査士会学術研修会	7月4日～7月31日	Web研修会 (オンデマンド配信)	東京都細胞検査士会	細胞診	平本研二
JSS北海道 第42回地方学術研修会	2022/7/13	WEB	日本超音波検査学会	生理	渡邊孝浩
JSS中部 第36回地方学術研修会	2022/7/13	WEB	日本超音波検査学会	生理	渡邊孝浩
第50回国臨協関信支部記念学会	2022/9/3	オンライン形式	国臨協関信支部	全般	青木正哉 渡邊孝浩
Webシンポジウム感染症対策シナジー ：未来の姿は？	2022/9/13	オンライン形式	独立行政法人国立病院機構	感染症	青木正哉 渡邊孝浩
第34回関東甲信越地方会学術集会	2022/9/24.25 (10/5～11/14)	現地開催 (オンデマンド配信)	日本超音波医学会	生理	立川康則
Pancreatic US expert training seminar	2022/11/11 (11/18～11/30)	Web配信 (オンデマンド配信)	キャノンメディカルシステム	生理	立川康則
第36回関東臨床細胞学会学術集会	2022/10/15.16 (10/24～11/30)	現地開催 (オンデマンド配信)	日本臨床細胞学会	細胞診	青木正哉
第61回日本臨床細胞学会 (秋期大会)	2022/11/5.6 (11/10～12/12)	現地開催 (オンデマンド配信)	日本臨床細胞学会	細胞診	青木正哉
令和4年度 臨床検査の精度確保と品質マネジメント研修	2023.2. 2	Web研修会	国立病院機構本部	精度管理	平本研二
第85回細胞検査士ワークショップ	2022/3/13～3/28	WEB配信講義視聴	日本臨床細胞学会	細胞診	青木正哉

3. 国立療養所多磨全生園ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会状況（令和4年度）

承認番号	課題名	審査結果	実施期間	代表者
O4-O1	高齢者の身体的特性とその特性に適した医療に関する研究	迅速審査「承認」	2022年7月1日～2022年12月31日	汐崎 祐
O4-O2	フィブリノゲン製剤・血液凝固因子製剤投与に係る診療録（カルテ等）に関するカルテ調査事業がおこなわれた医療機関でのその実施状況に関する研究：投与判明者の背景因子調査	迅速審査「承認」	2023年1月12日～2024年3月31日	正木 尚彦
O4-O3	ハンセン病後遺症患者とWhole Person Care（症例報告）	迅速審査「承認」	2023年3月31日～2024年3月31日	菅野 太洋
O4-O4	ハンセン病療養所在住者の身体機能に関する後方視的観察研究	迅速審査「承認」	2023年3月31日～2024年3月31日	紙本 貴之

国立療養所多磨全生園ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会 委員名簿（R4.4.1）				
職	名	氏 名	備 考	
国立療養所多磨全生園	副院長	三宅 智	委員長	
国立療養所多磨全生園	総務部長	松本 良一		
国立療養所多磨全生園	看護部長	梅津 珠子		
国立療養所多磨全生園	医療職（一）代表	村上 龍司		
国立療養所多磨全生園	医療職（二）代表	山崎 英明		
国立療養所多磨全生園	医療職（三）代表	田崎 明子		
国立療養所多磨全生園	行政職（一）代表	府川 良治		
国立感染症研究所ハンセン病研究センター		阿戸 学		
法務省人権擁護委員		江藤 佳子	規程第4条第1項（1）、（2）、（3）委員	
上智大学法学部		岩田 太		
国立療養所多磨全生園	庶務課長	土師 宏之	事務局	

6. 規程の改訂状況（令和4年度）

規程名	年月日	備 考（理由等）
園内感染対策指針	2022年6月6日	医療の進化や社会環境の変化等に伴うもの
園内感染対策委員会規程	//	//
感染対策チーム（ITC）規程	//	//
セクシャルハラスメント規程	2022年9月1日	ハラスメント相談員の見直し
パワーハラスメント規程	//	//
国立療養所多磨全生園庁舎の管理に関する細則	2022年9月1日	本細則と施設管理規定の内容が重複しているため一本化
国立療養所多磨全生園施設管理規定	//	本規程を廃止し、庁舎の管理に関する細則に一本化
国立療養所多磨全生園受託実習生受け入れに伴う取扱規程	2022年6月6日	個人情報の適切な取扱いについて追記

Ⅲ 統計資料

1. 職員定員・現員、永年勤続授賞者等

(1) 定員内職員

各年度4月1日現在

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
指定	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
行(一)	18	17	18	18	18	18	18	18	22	22	22	21
行(二)	104	102	104	100	102	101	102	100	101	99	98	95
医(一)	23	14	23	11	23	15	23	15	23	16	23	15
医(二)	29	26	30	28	30	27	28	27	27	27	27	26
医(三)	153	148	153	151	153	144	145	136	140	133	137	130
福祉	4	3	5	3	5	3	5	4	5	4	5	4
教(二)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
計	339	318	341	319	339	316	329	308	326	309	320	299

(2) 賃金職員・期間業務職員

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	現員	現員	現員
行(一)			2	2	7	7	7	9	7
行(二)	75	41	73	32	68	29	24	17	16
医(一)									
医(二)									
医(三)									
福祉	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	79	45	79	38	79	40	35	30	27

(3) 令和4年度叙勲授賞者

氏 名	在籍時職名	在職期間	叙勲関係	備 考
		対象者なし		

(4) 職員の健康管理

令和4年度末 現在職員数	318人	うち 40歳以上 36歳以上～39歳 35歳	281人 16人 1人
-----------------	------	------------------------------	-------------------

① 一般の健康診断

健康診断の受診人員等										指導区分及び事後措置										
項 目		対象者数	受 診 実人員		精密検査 対象者数	精密検査 実 施 数		経過観察 実 施 数		指導区分 (医療の面)			勤務上の措置			就業 禁 止				
			健康診断 総合的な 健康診断	健康診断 総合的な 健康診断		健康診断 総合的な 健康診断	健康診断 総合的な 健康診断	健康診断 総合的な 健康診断	健康診断 総合的な 健康診断	健康診断 総合的な 健康診断	健康診断 総合的な 健康診断	要医療	要観察	人	人		時間外勤務 等 の 制 限	人		
肺	肺がん胸部 エックス線検査	281 (37)	238 (35)	35 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15	1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	結核胸部 エックス線検査	318	270	35	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	15	1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	喀痰細胞診	11 (0)	11 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	血圧測定	318	247	35	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	2	0 3	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断
循環器	血糖検査	282 (36)	274 (34)	34 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0 0	3	0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	尿検査(蛋白)	318	273	35	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	25	1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	尿検査(糖)	318	273	35	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	25	0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	心電図検査	282 (36)	273 (36)	34 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0 0	1	0 34	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断
健康診断	LDLコレステロール検査	282 (36)	274 (34)	34 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0 0	0 0 0	0	0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	HDLコレステロール検査	282 (36)	274 (34)	34 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0 0	0 0 0	0	1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	中性脂肪検査	282 (36)	274 (34)	34 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0 0	0 0 0	0	1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	貧血検査	282 (36)	274 (34)	34 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0 0	0 0 0	0	0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
胃	胃エックス線検査	281 (37)	28 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0 0	1 0 0	4	1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	胃内視鏡検査	281 (37)	0 (0)	17 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0 0	0 0 0	0	0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	肝機能検査	282 (36)	274 (34)	34 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0 0	0 0 0	0	1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断
	便潜血反応検査	281 (37)	71 (0)	25 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0 0	0 0 0	0	0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	人	人	総合的な 健康診断 健康診断	総合的な 健康診断 健康診断

② 臨時の健康診断

項 目	健康診断の受診人員、所要経費等										指導区分及び事後措置										
	対象者数 人	受 診 実人員 人		精密検査 対象者数 人		精密検査 実施数 人		経過観察 実施数 人		所要経費			指導区分(医療の面)				勤務上の措置				就業 禁止 人
										職員厚生 経 費 円	共済・その他 経 費 円	個人負担 経 費 円	要医療 人	要観察 人	休暇又は休職 人		勤務の軽減かつ時 間外勤務等の制限 人	時間外勤務 等の制限 人			
第21条関係(1)～(8)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
子宮頸がん検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
乳がん検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
情報機器健診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
超過勤務検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
B,C型肝炎検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
HBS抗原、抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
HCV抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
採用時の健康診断																					
非常勤職員の一般定期健康診断	64	50	1	0	0	0	0	0	0	270,864	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
上段以外 の非常勤	(2)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
総合的な健康診断	318	67		0	0	0	0	0	0	0	1,433,765	1,496,665									
非常勤	(52)	(3)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(66,550)	(66,550)									
心理的な負担の 程度を把握する ための検査	318	249		0	0	0	0	0	0	517,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤	(52)	(28)		(0)	(0)	(0)	(0)			(0)	(0)	(0)									

総合的な健康診断の受診状況(常勤職員)

	受診者数	重複受診者数
40歳以上	66人	31人
36歳以上40歳未満	1人	0人
35歳	0人	0人
35歳未満	0人	0人

保健指導の実施状況

4項目有所見者数	0人
精密検査実施数	0人
保健指導実施数	0人

③ 特別の健康診断

業務別健康診断の受診人員等										指導区分及び事後措置																
項 目	対象者数	受診実人員		受診延人員		精密検査対象者数		精密検査実施数		経過観察実施数		指導区分(医療の面)			勤務上の措置			就業禁止								
		健康診断 総合的な健康診断	人	健康診断 総合的な健康診断	人	健康診断 総合的な健康診断	人	健康診断 総合的な健康診断	人	健康診断 総合的な健康診断	人	健康診断 総合的な健康診断	人	要医療 健康診断 総合的な健康診断	人	要観察 健康診断 総合的な健康診断	人		健康診断 総合的な健康診断	人	健康診断 総合的な健康診断	人	健康診断 総合的な健康診断	人	健康診断 総合的な健康診断	人
特別定期健康診断	第1号	有害物質 従事したことがある職員	7	7	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	第2号	紫外線等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第3号	粉じん 従事したことがある職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	第4号	病原体	7	7	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第5号	チェンソー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第6号	暑熱	13	13	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第7号	寒冷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第8号	異常気圧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第10号	騒音	17	17	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第12号	超音波	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特別定期健康診断	第2号	放射線 従事したことがある職員	6	6	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	第3号	せん孔・タイプ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第4号	あん摩マッサージ	8	8	0	16	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第5号	重量物	210	208	0	415	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第6号	深夜	130	128	0																					
	第7号	自動車運転	20	20	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第8号	調理・配せん	73	73	0	1,215	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			73	73	0	146	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第9号	計器監視	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
上記特別定期健康診断を必要とする業務への配置前の健康診断			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非常勤職員の特別定期健康診断			25	25	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2. 経理関係

(1) 歳入・歳出決算額

歳入科目	単位：千円
雑収入	17,459
国有財産収入	3,560
諸収入	13,899
歳出科目	単位：千円
国立ハンセン療養所	3,266,447
職員基本給	1,319,371
職員諸手当	587,291
超過勤務手当	101,087
非常勤職員手当	0
短時間職員給与	44,398
児童手当	12,970
施設施工旅費	0
施設施工庁費	60,258
施設整備費	0
諸謝金	5,544
入所者作業謝金	1,601
入所者給与金	35,188
職員旅費	527
研修旅費	0
外国旅費	0
委員等旅費	84
生徒旅費	165
入所者転送等旅費	12
庁費	26,455
情報処理業務庁費	0
入所者療養諸費	838,068
受託研究費	0
医療機器整備費	37,807
医薬品等購入費	112,024
通信専用料	0
各所修繕	4,180
入所者食糧費	79,197
自動車重量税	220

(2) 医療機器整備状況

品名	規格・型式	単位：千円
残尿測定装置 3台	ブラダースキヤナー MD-6000	2,574
電動リモートコントロールベッド及び体圧分散式マットレス	(ベッド) パラマウント メーティスPROシリーズ KA-75121A) (マットレス) モルテン テルサ MTL S1283	17,435
血液凝固自動分析装置	シスメックス株式会社 CN-3000	8,118
検体検査システム	ニューコン株式会社 Hi-LABO-S	8,690
静脈可視化装置	AccuVein AV500	990

(3) 施設整備状況

工 事 名	単位：千円
旧中央集会所解体工事	23,650
福祉会館解体工事	9,900
第3東センター管理棟解体工事	5,775
旧少年少女舎解体工事	4,983

3. 入所者関係

(1) 平成29年度～令和4年度 年度別入所者数

	29年度			30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
年度末入所者数 (人)																		
	75	93	168	72	85	157	66	80	146	57	71	128	49	68	117	44	61	105
年度末平均年齢 (歳)																		
	84.0	87.0	85.5	84.3	87.4	86.0	84.7	88.2	86.6	84.9	88.5	86.9	85.2	89.0	87.4	85.9	89.2	87.8
再入所者数 (人)																		
	4	1	5	1	0	1	3	2	5	8	3	11	6	1	7	2	1	3
退所者数 (人)																		
	10	4	14	4	8	12	9	7	16	17	12	29	15	4	19	10	8	18
内 訳																		
死亡者数 (人)																		
	8	4	12	4	8	12	7	5	12	10	9	19	10	4	14	6	6	12
退所者・社会復帰者数 (人)																		
	2	0	2	0	0	0	2	2	4	7	3	10	5	0	5	2	1	3
転退所 (人)																		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3

(2) 月別推移状況

年月	区分	繰越入所者数	転入再入所者数	転退所者数	死亡者数(再計)	月末入所者数	延入所者数	平均入所者数
令和4年.	4	117	0	0	0	117	3,510	117.0
	5	117	0	0	0	117	3,627	117.0
	6	117	0	0	1	116	3,505	116.8
	7	116	0	0	0	116	3,596	116.0
	8	116	0	0	1	115	3,453	111.4
	9	115	0	0	2	113	3,441	114.7
	10	113	1	0	0	114	3,507	113.1
	11	114	1	3	4	108	3,348	111.6
	12	108	0	0	1	107	3,332	107.5
令和5年.	1	107	0	0	0	107	3,317	107.0
	2	107	0	0	2	105	2,965	105.9
	3	105	1	0	1	105	3,254	105.0
	計		3	3	12		40,855	111.9

(3) 年齢別人数

(年度末現在)

区 分	男	女	計	構成比
65～69歳	1	0	1	1.0%
70～74歳	6	0	6	5.7%
75～79歳	4	4	8	7.6%
80～84歳	7	8	15	14.3%
85～89歳	9	18	27	25.7%
90～94歳	11	22	33	31.4%
95～99歳	5	6	11	10.5%
100歳以上	1	3	4	3.8%
合 計	44	61	105	100.0%

(4) 在所期間別人数調

(年度末現在)

区 分	男	女	計	構成比
5年未満	3	1	4	3.8%
5～10年	5	2	7	6.7%
11～15年	1	2	3	2.9%
16～20年	2	0	2	1.9%
21～25年	2	3	5	4.8%
26～30年	4	3	7	6.7%
31～35年	4	8	12	11.4%
36～40年	1	5	6	5.7%
41～45年	2	1	3	2.9%
46～50年	0	4	4	3.8%
51～55年	3	5	8	7.6%
56～60年	3	6	9	8.6%
61～65年	4	3	7	6.7%
66年以上	10	18	28	26.7%
計	44	61	105	100.0%

(5) 開園〔1909年〕以来年齢別死亡者数調

(年度末現在)

性別	年齢	0～9	10～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59
男		13	75	205	281	357	348	287	224	196	175
女		8	37	58	74	78	90	73	70	66	70
計		21	112	263	355	435	438	360	294	262	245
性別	年齢	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	不詳	計
男		154	165	151	140	127	118	98	2	9	3,125
女		67	51	74	60	77	82	98	13	6	1,152
計		221	216	225	200	204	200	196	15	15	4,277

(6) 月別寮籍別入所者数

(月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1センター	32	33	32	32	32	32	33	30	29	30	31	29
第3西センター	25	26	26	25	26	24	24	24	23	25	25	25
新センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般寮	35	33	34	33	33	32	31	32	32	31	30	31
病棟籍	25	25	24	26	24	25	26	22	23	21	19	20
合 計	117	117	116	116	115	113	114	108	107	107	105	105

(7) 疾病別死亡患者数統計表 (全科)

【全科】

集計期間：平成29年4月1日～令和5年3月31日

ICD10コード	疾病名	死亡者数					
		29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
C20	直腸癌						
C61	前立腺癌		1				
C169	胃癌						
C189	大腸癌						
C220	肝臓癌				2	1	
C221	胆管細胞癌				1		1
C259	膵臓癌		1			2	
C349	肺癌		1	1			1
C549	子宮体癌						
C859	悪性リンパ腫	1					
D046	右上腕ボーエン病						
D374	大腸腫瘍						
D376	肝腫瘍	1					
D383	縦隔腫瘍						
D432	脳腫瘍						
G595	頸髄症						
G919	硬膜下水腫						
I219	急性心筋梗塞	1					
I255	心筋虚血			1			
I49	その他不整脈					2	
I500	うっ血性心不全	1			1		
I509	心不全	2	1		4	2	1
I619	脳出血	1					
I635	脳幹梗塞						
I639	脳梗塞		1			1	
I71	大動脈瘤及び解離					1	
J189	肺炎		2	6	2		2
J810	肺水腫				1		
J849	間質性肺炎	1					
J9609	急性呼吸不全	1		1			
K567	腸閉塞		1		1	1	
K650	急性腹膜炎				1		
K810	胆嚢炎				1		
K922	消化管出血					1	1
N178	急性腎不全		1	1	1		
N189	慢性腎不全				1		
R54	老衰	3	2	2	1	3	6
R688	多臓器不全		1		1		
R99	診断不明確				1		

(8) 委託診療件数（施設別・入院・外来別）

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
NHO 東京病院	0	5	1	6	0	9	1	7	0	4	0	2	1	5	0	4	0	4	0	3	0	1	0	3	3	53
NHO 村山医療センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
NHO 埼玉病院	0	1	1	2	0	2	1	0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	1	0	2	0	1	1	2	4	15
公立昭和病院	2	2	1	2	0	2	0	0	0	0	0	2	0	1	1	1	0	0	0	2	0	0	1	3	5	15
杏林大学病院	0	2	0	3	0	1	0	3	1	1	1	5	0	2	0	4	1	2	0	2	0	1	0	2	3	28
多摩北部医療センター	0	2	0	2	0	2	1	4	0	2	0	2	0	1	0	6	0	2	0	4	0	2	0	3	1	32
複十字病院	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	0	0	2	1	1	11
新山手病院	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	5	5
武蔵村山病院	0	1	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	10
東京白十字病院	0	2	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	4	11	11
秋津眼科医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
国立精神・神経医療研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
榊原記念病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
計	2	15	3	18	3	19	4	17	3	13	2	14	2	14	1	23	1	12	0	18	0	7	2	16	23	186

*延べ件数（件）

(9) 平成27年度から令和4年度 医療社会事業（ソーシャルワーク）統計

① 相談件数

年度	入所者	外来
平成27年度	3,307	322
平成28年度	3,074	325
平成29年度	2,676	316
平成30年度	2,322	291
令和元年度	2,222	280
令和2年度	1,998	135
令和3年度	1,749	140
令和4年度	1,552	103
計	18,900	1,912

② 援助内容

年度	心理社会的問題援助	退院援助	受診受療援助	経済的問題	社会復帰援助
平成27年度	2,263	0	866	1,960	0
平成28年度	2,109	0	86	1,823	0
平成29年度	1,889	0	739	1,721	0
平成30年度	1,672	0	706	1,499	2
令和元年度	1,650	0	720	1,450	1
令和2年度	1,468	0	654	1,295	0
令和3年度	1,173	0	586	1,030	0
令和4年度	1,045	0	524	887	0
計	13,269	0	4,881	11,665	3

③ 援助方法

年度	面談	電話・書信での相談	電話等での調整収集提供	協議・カンファレンス	記録文書	訪問
平成27年度	2,588	967	990	1,722	1,910	9
平成28年度	2,314	1,172	1,140	1,583	2,045	9
平成29年度	2,116	1,086	1,113	1,331	1,826	6
平成30年度	1,716	956	947	1,243	1,663	6
令和元年度	1,645	1,004	1,035	1,232	1,644	3
令和2年度	1,535	992	974	1,111	1,488	2
令和3年度	1,157	841	749	907	1,282	1
令和4年度	1,013	760	681	848	1,154	0
計	14,084	7,778	6,199	9,977	13,012	36

④ 個別外援助

年度	院内カンファレンス・会議	文書・資料作成・整備	教育
平成27年度	20	28	6
平成28年度	27	24	6
平成29年度	27	19	8
平成30年度	40	15	6
令和元年度	28	12	6
令和2年度	24	9	0
令和3年度	23	5	0
令和4年度	29	4	0
計	218	116	166

4. 治療棟診療科受診者数

(上段：延べ人数 下段：1日平均人数)

診療科/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
内 科	182	196	192	187	164	157	184	223	193	179	222	200	2,279
	9.1	10.3	8.7	9.4	7.5	7.9	9.7	11.2	9.7	8.5	11.7	9.1	9.3
精神科	44	46	27	39	35	32	38	24	31	27	54	71	468
	2.2	2.4	1.2	2.0	1.6	1.6	2.0	1.2	1.6	1.3	2.8	3.2	1.9
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	15
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.1
耳鼻科	331	303	350	312	313	280	294	315	268	275	262	268	3,571
	16.6	15.9	15.9	15.6	14.2	14.0	15.5	15.8	13.4	13.1	13.8	12.2	14.6
皮膚科	311	317	390	332	343	371	323	328	286	392	346	329	4,068
	15.6	16.7	17.7	16.6	15.6	18.6	17.0	16.4	14.3	18.7	18.2	15.0	16.7
眼 科	128	138	119	115	131	82	124	100	104	108	91	153	1,393
	6.4	7.3	5.4	5.8	6.0	4.1	6.5	5.0	5.2	5.1	4.8	7.0	5.7
外 科	29	34	24	25	37	28	31	33	29	21	22	22	335
	1.5	1.8	1.1	1.3	1.7	1.4	1.6	1.7	1.5	1.0	1.2	1.0	1.4
整形外科	101	101	111	124	103	101	124	129	117	113	120	123	1,367
	5.1	5.3	5.0	6.2	4.7	5.1	6.5	6.5	5.9	5.4	6.3	5.6	5.6
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	14	20	7	7	14	6	0	16	11	7	13	0	115
	0.7	1.1	0.3	0.4	0.6	0.3	0.0	0.8	0.6	0.3	0.7	0.0	0.5
リハビリ科	102	96	120	104	110	113	119	114	100	103	92	117	1,290
	5.1	5.1	5.5	5.2	5.0	5.7	6.3	5.7	5.0	4.9	4.8	5.3	5.3
歯 科	146	150	183	141	156	156	146	157	148	142	156	0	1,681
	7.3	7.9	8.3	7.1	7.1	7.8	7.7	7.9	7.4	6.8	8.2	0.0	6.9
乳腺外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
透析室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	1,388	1,401	1,523	1,386	1,406	1,326	1,383	1,439	1,287	1,367	1,393	1,283	16,582
平均計	69.4	73.7	69.2	69.3	63.9	66.3	72.8	72.0	64.4	65.1	73.3	58.3	68.0

5. 診療統計関係

(1) 薬剤に関する概況

① 処方せん発行枚数および調剤回数等

区分	処方せん発行枚数	調剤回数	延べ剤数
内用剤	12,944	19,344	391,28
外用剤		6,798	6,855
注射剤	2,375	4,092	4,415
計	15,319	30,234	402,557

② 医薬品消費額

区分	消費額（単位：円）
内用剤	16,555,997
外用剤	6,789,595
注射剤	7,890,228
計	31,235,820

③ 製剤

区分	外用液剤 (滅菌)	外用液剤 (非滅菌)	外用固形剤 (非滅菌)	内用剤 (非滅菌)	注射剤 (IVH)	合 計
製剤種類	0	1	0	6	0	7
製剤回数	0	26	0	29	0	55

(2) 臨床検査に関する概況

① 臨床検査業務統計表

施設名：国立療養所多磨全生園

令和4年度

			区分	院内検査件数				外部委託 件数（別掲）	
				入 院	外 来	請求外件数	総件数		
件 数 統 計	検 体 検 査	合 計	1～8	11,220	14,053	18,487	43,760	929	
		尿・便等検査	1A、1B	242	449	706	1,397	2	
		髄液・精液等	1C、1Z	0	0	0	0	8	
		血液学的検査	2A～2C・2Z	1,019	1,051	1,498	3,568	40	
		生化学的検査	3A～3M・3Z	8,303	9,968	11,381	29,652	224	
		内分泌学的検査	4A～4H・4Z	151	220	184	555	119	
		免疫学的検査	5A～5K	1,205	2,102	2,863	6,170	456	
		微生物学的検査	6A～6C・6Z	298	263	1,855	2,416	35	
		病理組織検査	7B・7C・7D	0	0	0	0	0	
		細胞診検査	7A	0	0	0	2	45	
		機能検査	8A	0	0	0	0	0	
		染色体検査	8B	0	0	0	0	0	
		遺伝子検査	8C・8Z・7Z	0	0	0	0	0	
	生 理 機 能 検 査	合 計	9	臨床検査技師実施件数				技師外実施 件数（別掲）	出張件数 （再掲）
				入 院	外 来	請求外件数	総件数		
				28	205	297	530	1,495	21
		心電図検査等	9A	20	149	297	466	0	19
		脳波検査等	9B	0	1	0	1	0	0
		呼吸機能検査等	9C	0	0	0	0	0	0
		前庭・聴力機能検査等	9D	0	0	0	0	145	0
		眼科関連機能検査等	9E	0	0	0	0	1,164	0
		超音波検査等	9F	8	55	0	63	109	2
		その他	9I・9G・9Z	0	0	0	0	77	0
		穿刺・採取料等	9J	257	880	16	1,153	395	0
			総数	計上内容等					
MRI件数			0	臨床検査技師が実施したMRI件数					
内視鏡件数			0	臨床検査技師が介助した件数					
病理解剖件数	7 Z	全身	0	脳解剖を含む病理解剖数					
		一部のみ	0	脳解剖を含まないまたは脳解剖のみの病理解剖数 ただし屍検は含まない					
輸血管理部門の取扱い状況			*****						
入庫数		製剤数	4	入庫した血液製剤バッグ数					
出庫数		製剤数	3	輸血管理室から出庫した血液製剤バッグ数					
輸血済み血液製剤数		製剤数	3	輸血が実施された血液製剤バッグ数					
血液製剤廃棄率		%	0.00	自己血を除く血液製剤廃棄率（年度通算）					
病理組織ブロック数		個	0	病理解剖を除くブロック数					
免疫染色枚数（病理）		枚	3	のべ染色枚数（組織および細胞）					
特殊染色枚数（病理）		枚	4	のべ染色枚数（組織および細胞）					
医療機器保守点検件数		件数	48	検査部門内外の医療機器点検件数					
各種チーム医療連携業務		件数	72.00	チーム医療連携業務の件数およびタスク・シフト/シェア業務の時間数					
各種指導・教室等実施状況		件数	0	DM教室、新人職員または臨地実習などのオリエンテーション					
治験取扱い患者人数		患者数	0	採血、生理機能検査、検体前処理等の回数に関係なく1患者1件					
臨床研究取扱い患者人数		患者数	0	院内の倫理委員会で承認された研究に関する扱い患者数					
実習・研修等受入れ状況		単位	0	計算式＝受け入れ日数（1日を8時間として）×人数					
			入 院	外 来	総件数	計上内容等			
ホルター心電図等解析件数		件数	0	1	1	ホルターECG・血圧計、PSG、SASなどの解析件数			
超音波検査等所見記載件数		件数	8	55	63	計測、解析や超音波検査や脳波検査などの所見を記載した件数			
小児・重心・筋ジス・精神患者検査件数		患者数	0	0	0	小児（14歳以下）、重心・筋ジス・精神患者を検査した件数（項目限定）			
検査説明・相談件数		件数	0	0	0	説明あるいは相談に5分以上を要した件数			
鼻腔ぬぐい液等検体採取件数		件数	272	616	888	臨床検査技師が採取した件数			
採血管準備患者数		患者数	550	260	810	検査部門で採血管準備した患者数。（職員健診分は除く）			
静脈採血患者数		患者数	0	260	260	検査技師が静脈採血した患者数。（職員健診や接触者健診分などは除く）			

医事報告用件数
診療件数＋請求外件数
48,262

の件数を各施設の経営企画室（管理会計報告用）に報告してください。
* NC とハンセン病療養所については情報提供といたします。

② 外部精度管理参加状況

メーカー名/事業名	部門	実施日	参加項目	報告日	評価	修了書
2022年 第31回ニッポーマメディカル免疫項目 精度管理調査	免疫	2022/2/26	CRP, β2-MG	2022/6	期待値内	無
2022年度 第15回コレステラスト コントロールサー ベイ	生化	2022/4/14	HDL, LDL, CHO, TG	2022/8/7	期待値内	無
2022年 イムノアッセイTMJ-ILC (BIO-RAD)	免疫	2022/5/12	AFP, CA19-9, CEA, PSA, β2MG, フェリチン, TSH, Free-T3, Free-T4	2022/7/26	期待値内	無
2022年度 ビトロス サーベイ	生化・免疫	2022/5/24	VITROS全項目 (生化27項目, 腫瘍マーカー5項 目, 甲状腺3項目, 感染症3項目, HbA1c)	2022/8/2	期待値内	有
2022年度 東ソーHbA1cコントロールサーベイ	生化	2022/6/6	HbA1c	2022/6/7	期待値内	無
2022年度 富士ドライケムサーベイ	生化	2022/6/13	NH3	2022/6/13	評価A	有
2022年度 第161回SQC「尿検査」 (シーメンスヘルスケア)	一般	2022/6/16	尿定性	2022/6/16	期待値内	無
2022年度『日臨技臨床検査精度管理調査』	生化・免疫・ 血液・一般・ 細菌・生理・ 輸血	2022/6/8	臨床化学・免疫血清・血液・ 一般・微生物・輸血・生理	2022/8/25	評価A+B (197/199)	有
令和4年度 (第56回)『日本医師会精度管理調査』	生化・免疫・ 血液・一般	2022/9/6	臨床化学・免疫血清・血液・ 一般	2022/9/15	95.6点	有
2022年度 第162回SQC「尿検査」 (シーメンスヘルスケア)	一般	2022/9/11	尿定性	2022/10/3	期待値内	無
2022年度 都臨技精度管理調査	生化学・血 液・輸血	2022/10/19	臨床化学・血液・輸血	2022/10/23	評価A+B (92/92)	有
2022年度 第163回SQC「尿検査」 (シーメンスヘルスケア)	一般	2022/12/13	尿定性	2022/12/13	期待値内	無
2022年度 第164回SQC「尿検査」 (シーメンスヘルスケア)	一般	2023/3/15	尿定性	2023/3/16	期待値内	無

③ 研究検査科令和4年度認定資格取得者状況

認 定 資 格	認 定 機 関	取得者
有機溶剤作業主任者	社会法人 労働基準協会連合会	平本研二
特定化学物質作業主任者	社会法人 労働基準協会連合会	平本研二 青木正哉
毒物劇物取扱責任者	東京都福祉保健局	青木正哉
緊急臨床検査士	日本臨床検査同学院	平本研二
二級臨床検査士：病理学	日本臨床検査同学院	平本研二 青木正哉
二級臨床検査士：血液学	日本臨床検査同学院	望月規央
二級臨床検査士：微生物学 (寄生虫含む)	日本臨床検査同学院	望月規央
超音波検査士（消化器領域）	公益社団法人日本超音波医学会	渡邊孝浩 立川康則
超音波検査士（循環器領域）	公益社団法人日本超音波医学会	立川康則
超音波検査士（体表臓器領域）	公益社団法人日本超音波医学会	立川康則
第2種ME技術者	公益社団法人日本生体医工学会	立川康則
認定臨床微生物検査技師	認定臨床微生物検査技師制度協議会 (7団体)	望月規央
感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT)	ICMT制度協議会 (7団体)	望月規央
感染制御スタッフ (ICS)	四病院団体協議会	望月規央
細胞検査士	日本臨床細胞学会	平本研二 青木正哉
国際細胞検査士	日本臨床細胞学会	平本研二 青木正哉
POCT測定認定士	日本臨床検査同学院	早川真奈美

(3) リハビリテーション科に関する概況

① 実施件数（PT・OT・ST 部門別）

理学療法部門

(件)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
理学療法		970	964	1,061	861	919	918	924	875	828	804	848	938	909
物理療法 (ホットパック)		221	207	200	163	175	180	179	181	170	180	178	198	186
物理療法 (その他) ※1		13	13	16	9	15	15	11	11	10	8	10	11	12
ベッドサイド		133	154	142	121	109	142	154	148	113	92	125	108	128
家屋評価		3	5	0	3	4	5	12	9	3	0	7	7	5
カンファレンス※2		1	2	2	0	3	1	0	1	3	0	3	1	1

※1：その他とは、スパーライザーと牽引をさす

※2：病棟、センターで実施される症例カンファレンス、対象者死亡後実施されるカンファレンスをさす

作業療法部門

(件)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
作業療法 (棒体操除く)		236	286	345	317	331	298	311	285	361	349	312	314	312
棒体操 ※3		60	61	57	49	42	45	36	34	39	44	43	39	46
前頭葉リハ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前頭葉・認知		0	0	0	0	0	0	6	3	3	0	1	0	1
合 計 ※3 (棒体操含む)		296	347	402	366	373	343	347	319	400	393	355	353	358

※3：作業療法部門における棒体操は小集団（2～3名）でおこなっており、全体で1単位のみとするため合計件数のみに含む

言語聴覚療法部門

(件)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
言語聴覚療法		144	162	167	120	163	165	166	132	138	121	145	141	147

② 新規処方患者件数（PT・OT・ST 部門別）(件)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
理学療法		2	0	1	0	0	2	1	0	0	3	0	1	0.8
作業療法		4	3	4	2	1	0	1	0	0	1	0	0	1.3
言語聴覚療法		0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2	0	0.4

新患件数	※	2.25件／月
処方件数	※	12.67件／月
実働日数	※	20.25日／月

※：PT, OT, ST全部門の平均値

③ 患者所属別 実施者のべ件数(件)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
第1病棟		153	164	189	153	188	177	178	156	173	114	86	120	154
やすらぎ病棟		194	213	257	226	179	229	217	191	169	226	228	218	212
第1センター		467	462	482	389	482	425	439	396	442	411	431	455	440
第3西センター		323	353	418	357	380	376	389	374	378	372	383	411	376
一般 寮		213	223	240	175	205	192	206	196	201	171	191	209	202
外 来		18	20	19	20	16	14	14	0	0	0	11	2	11
第二共済		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		1,368	1,435	1,605	1,320	1,450	1,413	1,443	1,313	1,363	1,294	1,330	1,415	1,396

④ 実施件数 (PO 部門)(件)

区 分	年 度	令和3年度			令和4年度		
		新 規	更 新	修 理	新 規	更 新	修 理
義 肢		1	2	1	1	0	1
装 具		72	18	10	49	27	17
自 助 具			44			58	
そ の 他 ※1			62			59	
合 計			210			212	
調 整 等 ※2			242			197	

※1：家屋改修、褥瘡予防関連、車椅子・歩行器改良など。
 ※2：処方以外に細かな調整や修理、試作等が増加しているため、計上している。

(4) 放射線科に関する概況

① 撮影機器別件数一覧表（入所者のみ）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般撮影	1,635	1,420	1,051	1,053	826
透視撮影	3	1	1	11	1
CT撮影	298	308	354	343	296
移動撮影	45	76	48	67	70
乳腺撮影	0	0	0	0	0
歯科撮影	113	140	100	60	50
骨密度測定			150	165	166
合 計	2,094	1,945	1,554	1,534	1,409

② 外部委託読影件数（入所者のみ）

検査項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入所者CT検査	269	251	245
入所者胸部検診	122	114	105
合 計	391	365	350

③ 放射線画像入出力数（入所者のみ）

*	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
園内画像出力	30	22	18	23	22
園外画像取込	39	29	21	36	31

(5) 栄養管理室に関する概況

① 年間入所者数

区 分		入所者数	分類	比率 (%)	
一	般 食	26,277	A	64.1	A/G
特 別 食	加 算 食	5,796	B	14.1	B/G
	非 加 算 食	8,570	C	20.9	C/G
	特 別 食 小 計	14,366	D	35.1	D/G
喫 食 入 所 者 数 小 計		40,645	E	99.2	E/G
欠 食 ・ 外 泊		330	F	0.8	F/G
総 合 計		40,975	G	100.0	

② 年間入所者食数

区 分		患者食数	分類	比率 (%)	
一	般 食	78,782	A	64.3	A/G
特 別 食	加 算 食	17,353	B	14.2	B/G
	非 加 算 食	25,662	C	21.0	C/G
	特 別 食 小 計	43,015	D	35.1	D/G
入 所 者 食 数 小 計		121,797	E	99.5	E/G
禁 食		670	F	0.5	F/G
総 合 計		122,467	G	100.0	

③ 行事食、選択食年間実施数

区 分	実 施 数
行 事 食 実 施 回 数	43 回
選 択 食 実 施 回 数	86 回
選 択 食 実 施 人 数	4,584 人

④ 栄養食事指導、病棟訪問年間実施数

区 分	合計実施数
個 人 栄 養 食 事 指 導 件 数	5 件
病 棟 訪 問 実 施 人 数	41 人

⑤ チーム医療カンファレンス年間実施数

区 分	実 施 数
褥 瘡 カ ン フ ァ レ ン ス	10 回
病 棟 カ ン フ ァ レ ン ス	22 回
N S T カ ン フ ァ レ ン ス	10 回
認知症ケアカンファレンス	10 回

6. 医療事故分析報告

(1) 内容別件数

内容	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5	合計
1 薬 剤	218	56	35	1	0	0	0	310
2 輸 血	0	0	0	0	0	0	0	0
3 治療・処置	52	29	8	0	0	0	0	89
4 医療機器等	3	0	0	0	0	0	0	3
5 ドレーンチューブ	0	0	1	0	0	0	0	1
6 検査に関すること	8	5	5	0	0	0	0	18
7 療養上の世話	41	36	97	99	8	0	0	281
療養上の世話の計画または指示								0
療養上の世話の管理、準備、実施	41	36	97	99	8	0	0	281
転倒・転落	3	7	83	33	6	0	0	132
熱 傷	0	0	0	10	2	0	0	12
表皮剥離	0	2	12	55	0	0	0	69
誤嚥・誤飲	0	0	2	1	0	0	0	3
その他	38	27	0	0	0	0	0	65
8 その他	83	24	3	1	2	0	0	113
合 計	405	150	149	101	10	0	0	815

(2) 部署別報告件数

部署	発生件数
1 病棟	118
やすらぎ病棟	155
第1センター	153
第3西センター	146
治療棟	32
一般寮支援室	51
夜勤外来	3
薬剤科	78
放射線科	1
検査科	7
栄養科	21
リハ科	6
医局	36
庶務課・会計課	1
福祉課	1
その他	6
合 計	815

(3) 職種別報告件数

職種	発生件数
医 師	35
看護師(含准看護師)	567
看護助手	99
薬剤師	78
臨床検査技師	7
理学療法士・作業療法士等	6
栄養士・調理師等	19
診療放射線技師	2
その他	2
合 計	815

(4) 発生曜日別件数

	発生件数
平 日	667
土・日曜日(休日)	148
合 計	815

(5) 発生時間帯

	発生件数
日勤	109
準夜	636
深夜	70
不明	0
合 計	815

(6) 患者年齢別

	発生件数
50歳代	0
60歳代	67
70歳代	67
80歳代	321
90歳代	259
100歳以上	55
複数(1事例で2名以上)	21
不 明(医療機器等で患者存在せず・職員)	25
合 計	815

7. 看護学校関係

(1) 学生数

() 男子再掲

学 年	学 生 数			
	学生定員	現員数 (男子再掲)	寄宿舎生数	通学生数
1 年生 (第55回生)	20	14 (2)	0 (0)	14 (2)
2 年生 (第54回生)	20	16 (4)	1 (1)	15 (3)

(2) 応募・入学・卒業状況

回 生	入学年度	応募者	受験者	入学者	入学男子	退学者	卒業者数	倍率
54	R3	自己19 一般19	自己19 一般19	17	4	1	15	自己3.5 一般1.3
55	R4	自己17 一般24	自己17 一般23	14	2	1		自己8.5 一般1.9

(3) 一般学歴

年 度	入学者学歴						准看護学校	
	大学	短大	高校	衛生看護科	中学	その他 (大検等)	当該年度	当該年度外
R3	4 (1)	4	8 (3)			1	11 (2)	6 (2)
R4	2 (0)	1	10 (2)			1	12 (0)	2 (2)

(4) 年齢別

年 度	回 生	18歳	19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳以上	最高年齢
R3	54			1	3	1	12	52
R4	55			2	2	1	9	48

(5) 出身都道府県別

年度	北海道	青森	宮城	秋田	山形	福島	群馬	茨城	栃木	埼玉	千葉	東京	神奈川	山梨	長野	富山	石川	静岡	愛知	兵庫	大阪	和歌山	岡山	広島	山口	高知	香川	愛媛	福岡	熊本	鹿児島	佐賀	長崎
R3			1						9		7																						
R4		1							4		9																						

(6) 卒業生進路状況

卒業 年 度	卒業 者 数	就 職										未 定	進 学					
		国立高度医療専門医療センター			ハンセン療養所		国立病院機構		委託治療施設	官公立(公的)病院	法人その他の病院		助産師学校	保健師学校	大 学			
		研究センター	循環器病研究センター	精神・神経医療研究センター	国際医療研究センター戸山病院	成育医療研究センター	自 施 設	他 施 設								実 習 施 設	実 習 外	
R3	20			2				3			1				10			
R4	15			3				1			5	1			5			

(7) 国家試験合格状況

年 度	回 生	卒業者数	受験者数	合格者数	合格率	既卒者合格率
R3	53	20	20	20	100	
R4	54	15	15	15	100	

(8) 研究業績・研修参加状況

<学会発表>

なし

<国立病院機構、国立看護大学校主催研修参加状況>

1. 押尾知子、大家枝利、軽部太一、山谷なぎさ、原口稔、金井千絵、吉田照子
令和4年度NHO関東信越グループ夏季研修会
講演：「対応が難しいと感じる学生へのかかわり方」
川上 ちひろ 岐阜大学医学教育開発研究センター
交流セッション：「人を認めて、自分を認める」

<その他の研修参加状況（自費）>

1. 大家枝利、軽部太一、山谷なぎさ、原口稔、金井千絵、吉田照子、松橋綾子
WEB研修会（南江堂主催）
学生の主体性を引き出すシミュレーション演習の設計
2. 金井千絵、大家枝利、吉田輝子
株）ネットラーニング主催
e-ラーニングを活用した看護教員のフォローアップ
3. 金井千絵
看護ラボラトリー主催
看護診断セミナー
初級コース 看護診断 基本から見直そう
中級コース 看護診断 アセスメント力をアップしよう
4. 軽部太一
メディクメディアwebセミナー
看護過程の展開方法の解説

<研究授業等参加状況>

なし

<学術集会等への参加>

なし

<看護教員インターンシップ実施状況>

なし

国立療養所多磨全生園年報編集委員会委員

委員長	岡 慎一	(副園長)
委 員	村上 龍司	(内科医長)
委 員	尾崎 正之	(歯科医師)
委 員	山崎 英明	(薬剤科長)
委 員	高橋八重子	(副看護部長)
委 員	土師 宏之	(庶務課長)
委 員	信澤 武	(福祉課長・会計第二課長)
委 員	太田 富雄	(人事課長)
委 員	押尾 知子	(教育主事)
委 員	田澤 理恵	(看護師長)
委 員	関根 昇	(庶務課長補佐)

発行年月日	令和6年3月
発 行 者	国立療養所多磨全生園 〒189-8550 東京都東村山市青葉町4-1-1 電話042-395-1101
発行責任者	鶴飼 克明
編 集 者	国立療養所多磨全生園年報編集委員会
印刷・製本	社会福祉法人 東京コロニー コロニー東村山印刷所
